



天満宮

題字／後西天皇御宸筆

◆ 天神さまと私 世界があこがれる観光都市へ

「京都は”ほんまもん”の宝庫です」

京都市観光政策監 糟谷範子

◆ 室町時代の北野御手水神事

共立女子短期大学教授 菅野扶美

◆ 大嘗祭と北野の関わり——『御即位御装束并御祭庭（悠紀主基）図』から

京都文化博物館学芸員 西山 剛

菅公御歌

彦星の行あひをまつかやうぎの
渡せらる橋をわれにかうなむ

〈特集〉

北野天満宮
「混迷の150年 甦る150年」

北野天満宮社報 夏号 Vol.15

KITANO TENMANGU NEWS

日本文化の中心地 京都
その文化の礎を築いた天神信仰発祥の社

北野天満宮の由緒

当宮は御祭神に菅原道真公（菅公）をお祀りした全国天満宮・天神社の宗祀（総本社）の神社です。

天神信仰発祥の社として今から千年余り前の村上天皇天暦元年（九四七）六月九日、御神託により平安京の天門にあたる北野に御鎮座致しました。天徳三年（九五九）右大臣藤原師輔卿が御社殿を造営、一條天皇により北野祭は官祭に与り、「北野天満大自在天神」の神号を賜り、さらに皇室・朝廷の崇敬を受け二十二社に加えられ、臣下として初めて官幣中社に列格、皇城鎮護の神として崇められるとともに、全国一万二千社を数える天満宮・天神社の総本社として崇敬されてきました。

創建以来、御皇室との御縁深く、寛弘元年（一〇〇四）には一條天皇がはじめて北野社に行幸されました。以来歴代天皇の行幸も二十数度に亘り、さらに將軍家や有力大名の崇敬を受けました。菅公薨去延喜三年（九〇三）より凡そ百年の歳月をかけて誕生した北野の天神信仰は、平安京の天門にあつて、朝野を問わず人々の暮らしの最も重要な指針となり今日まで育まれてきたのです。

「文道大祖風月本主」と崇められた菅公は、和魂漢才の精神で誠の心を以て学問に勤しまれたことから、学問をはじめ芸能・農耕・厄除け・至誠・冤罪を晴らす神として奉祀されるとともに、人々の心の支えとなる神として、各時代の社会構造と相まって篤い崇敬をうけ、庶民に至るまで「天神様」として親しまれてきました。菅公は、学者・政治家また詩人・教育者として多方面に活躍され、生涯一貫された「誠の心」は、日本人の感性として現在にも生き続けています。

千有余年に亘る歴史の中で受け継がれてきた天神信仰の根本を示すのが、当宮所蔵の国宝「北野天神縁起絵巻」承久本です。数ある縁起絵巻の中で唯一無二の神社絵巻物であり、その信仰性や描かれる世界観、美術的価値は世界が認めるところであります。

また現在の御社殿は、豊臣秀吉公の遺命により豊臣秀頼公が片桐且元を奉行として、慶長十二年（一六〇七）に造営された一大建築群です。御本殿は八棟造と称され、国宝の指定を受け、桃山文化の代表として、その絢爛豪華さは謂うまでもありませんが、特に多数の桃山建築中でその創建当時の規模そのままに保存されているのは当宮が唯一のもので、後世の権現造の原型となるなど、神社建築史に多大な影響を与えています。

菅公の御神霊を祀る北野天満宮は、御墓所・太宰府天満宮と共に全国天満宮の宗祀と称され、日本文化の礎、学問の神様として今日も多くの参詣者が訪れています。



【シンボルマーク】

平安京の天門に位置する北極星を星梅鉢と鳥居（北野）で捉えたマーク
（平安京については裏面参考）

表紙写真 —北野御手洗神事 光り輝く三光門—

菅公は都への望郷の念にかられ、七夕になぞられた「彦星の行あひを待つかささぎの 渡せる橋をわれに貸さなむ」の名歌を配所で詠まれた。

七夕信仰は御祭神の御心に深く関わる天神信仰の重要な一面であり、その神事は古来より北野の重儀として執行されてきた。昨年より、旧儀「北野御手洗神事」を再興し、「京の七夕」北野紙屋川会場として正式参画している。



御挨拶

「混迷の一五〇年、甦る一五〇年」さらなる天神信仰発揚に向けて



御本殿内陣に納められていた大嘗祭御装束類を描く

目に淡く優しい新緑の季節が過ぎ、皆様には暑さ厳しき折柄、愈々ご健勝の事とお慶び申し上げます。扱、「願い」をテーマに新たな京都の夏の風物詩を作ろうとオール京都で取り組む「京の七夕」に本年も参画致します。わけても当宮は七夕信仰の御縁深い社であり、菅公が大宰府の配所で詠われた「彦星の…」の御歌（表紙説明参照）は、都を想う望郷の歌として知られています。

菅公薨去後、門弟たちは西ノ京に戻り「菅原大神」として奉祀しましたが、これより四十四年の月日が流れた村上天皇天暦元年、天神地祇を祀る「地主社」（春号第十四号に紹介）が鎮座する平安京の天門「北野」に御神霊を祀り、北野社が創建されました。

創建より四十年後には一條天皇により勅祭「北野祭」が斎行、菅公は臣下にして異例の「北野天満大自在天神」の御神号を賜り、爾来御皇室の御崇敬篤く今日に至るまで歴代天皇の行幸啓は二十数度を数え、皇城鎮護の靈驗あらたかな神として奉祀されるはもとより、公家・将軍・識者・庶民に至るまで「天神様」として崇められ、その信仰は全国に伝播し、今や一万二千社が祀られています。

平安京の天門に鎮座する北野社の祭典は、朝廷の諸行事の中心的役割を担う宮中祭祀に御縁深く、その一つが天皇陛下の即位の後、初めて斎行される新嘗祭いわゆる踐祚大嘗祭との関係であります。

天皇陛下御親ら国家国民のために日々祈られる宮中祭祀、わけても皇位継承に際してのみ行われる重儀「大嘗祭」について、当宮古記録によれば貞享四年（一六八七）、東山天皇の踐祚大嘗祭斎行の折、祭典に先立つ重要儀式「御祓」が、当宮境内の荒見川（散忌川、現在名を紙屋川）にて執行されたとの記録が残り、「大嘗祭の始まりを告げる齋場」は北野であることが記されています。さらに古来北野所領であった右近馬場の東方に大嘗祭の悠紀殿・主基殿の齋場が設けられたなどの故事から、北野が朝廷の御崇敬殊のほか篤く宮中行事に深く関わる聖地として重要な意味を持っていたことがわかります。（六頁〜九頁参照）

千有余年に亘り培われてきた天神信仰は各時代に相まって柔軟に取り入れられ、「和魂漢才」に集約されるように今日の日本文化の礎となり、今も日本人の心の拠り所として生き続けています。（五頁参照）

折しも本年は大政奉還一五〇周年の節目の年ですが、明治維新による近代日本への転換は神社神道にも大きな影響を与えました。国家の仕組みが変わるその一方で、途絶えてしまった歴史、失われた信仰も多く、当宮創建以来連綿と受け継がれてきた北野の信仰を現代に復活させることは、今後の天神信仰発揚に繋がる大変意義深い取り組みであると捉え、今後は北野天満宮『混迷の一五〇年、甦る一五〇年』をテーマに、本刊を中心に歴史を検証し、更なる神徳宣揚と教化に努めて参ります。

今秋十月には愈々「文道会館」が竣工致します。新しい会館を、新たな文化発信の場として活用し、より一層の天神信仰の発揚に繋げていく所存でございますので、今後とも何卒ご理解ご協力程、宜しくお願い申し上げます。

北野天満宮

宮司

橘

重十九

所蔵『御即位御装束并御祭庭悠紀主基図』より
大嘗祭と北極星、北斗七星の関わりは深く、大嘗祭において天皇が着用する大袖には北斗七星があしらわれている。北野天満宮は平安京大内裏の天門を守護し、北極星を背負う三辰信仰の聖地であることから、北野の信仰が宮中行事に深く関わっていたことが表されている。（九頁参照）



世界があこがれる観光都市へ

「京都は”ほんまもん”の宝庫です」

京都市観光政策監 糟谷範子さん



糟谷範子氏

—当宮とのご縁はいつごろからですか？

糟谷 上賀茂神社の近くで生まれ育ったので、初詣は必ず上賀茂さん。子供の頃は遊び場でした。しかし、受験の時は、学問の神様である北野天満宮に合格祈願参り。きっちり、中学校・高校・大学と三回お世話になりました。感謝、感謝です。また、遠くにいる親戚で受験期の子どもがいれば、お守りを送ってあげます。だいたい京都の人は、そうだと思います。

—そのほか、当宮の思い出がありましたら。

糟谷 二十年以上前から骨董にはまっていて、天神さんの縁日（二十五日）と休日が重なる日をカレンダーでチェックして、こちらへ来ていました。値切り交渉など、売り手との会話も楽しみの一つです。また、欠けていても金継ぎが施してある食器など、本当に大切に使用していた器に出会い、日本人の美意識や職人さんの心意気といったものを感じることができ、その醍醐味です。一つ一つ買い集めたお皿やぐい飲みは、飾るよりも、日常生活の中で使うようにしています。おかげでもう食器棚がパンパンです。

—仕事で当宮に来られたのはいつ頃からですか？

糟谷 平成十八年、文化財保護課長をしていた時です。当時、御土居はまだ公開されていませんでした。初めて中に入り、ものすごく美しいもみじを見て、息が詰まるほどの感動を覚えました。こんな美しいところが非公開だなんて：正直もつたいないと思いました。きちんと人が誘導できなければ公開できないというわけで、回遊できる橋を架ける計画が出されていました。きちんと人が誘導できなければ公開できないという許可がいります。そこで文化庁のご協力もあって、大変きれいな橋が出来たわけです。御土居が公開され、たくさんの方が天神さんに来られて美しいもみじを観賞され、また、御土居という歴史的遺産と身近に接することで、文化財への理解を深めて頂くきっかけとなり、文化財行政としてもありがたいことだったのです。

糟谷範子（かすやのりこ）

京都市北区生まれ。大阪大学人間科学部卒。観光振興課長、文化財保護課長、商工部担当部長、国際化推進室長などを経て平成二十六年から観光政策監。





七夕に学業成就の願いをする修学旅行生



史跡御土居に架けられた鶯橋（うぐいすばし）

― 京都市の観光政策についてお聞かせください。

糟谷 今から約二十年前、年間観光客数は三千八百万人台という厳しい状況にありましたが、十年間で五千万人観光都市を目指す、観光振興計画「おこしやすプラン」を策定しました。人数という大変分かりやすい目標、しかも、並大抵の努力では決して成し得ないような高い目標を掲げることによって、行政、観光業界、幅広い経済界、寺社、大学、市民団体、地域団体等が丸となり、オール京都で観光振興に取り組むこととなりました。計画策定当初は、不可能ではないかと思われた数値目標ですが、二年前倒しで達成することができました。桜や紅葉の季節に集中する観光客を一年を通してお越しいただけるよう、夏や冬の閑散期対策に力を入れたり、京町家を活用したレストランやショップをご紹介して、「まちなか歩き」を推奨したり、京都の市民パワーを活かしたボランティア組織である「京都おこしやす委員会」をつくり、市田ひろみ委員長を先頭にご活動いただいたり：一〇〇もの施策に取り組んだ結果です。

五千万人達成となり、次は六千万人を目標にするのか？と言われましたが、二〇一〇年に策定した計画では、次なる目標として、量を確保しながらも、質の向上を目指す、すなわち「五千万人観光都市」から「五千万人感動都市」を目標に、「観光スタイル、旅の質を高める」、「観光都市としての質を高める」取り組みを進めることになりました。「泊まってこそ京都」「歩いてこそ京都」といったキャッチフレーズで、滞在型観光、公共交通機関を使ってじっくりと旅の本質を堪能できる町を目指しました。京都の街並みに合ったデザイン、観光案内標識の整備や道路の混み具合も踏まえたうえで最適な公共交通機関のルートが分かる「歩くまちアプリ」の開発、歴史都市に暮らす幸せを感じてもらうための「小学生世界遺産招待事業」など、一一六の事業に取り組みました。

― 現在はどういう取り組みをされていますか。

糟谷 二〇一四年、東京オリンピック・パラリンピック開催決定を受け、新たな計画「京都観光振興計画二〇二〇」世界があこがれる観光都市へ」を策定し、現在、一九一の事業に取り組んでいます。この計画では、二〇二〇年の観光消費額を一兆円にすることを目標に掲げましたが、昨年、一兆八六二億円となり、四年前倒しで達成することができました。一人当たりの消費単価も前年と比べ大きく増加しました。観光客の満足度、感動度を数値的に表す指標の一つが、一人当たりの観光消費額であると思っています。食事やお買い物、文化体験などに使ったお金が多ければ、楽しんでおられることの表れです。そして、観光消費額の総額を上げることによって、観光産業だけでなく、伝統産業、農業など幅広い産業が元気になる、伝統文化や地域も元気になる、そして市民生活が豊かになる、そうしたことを目指しています。

― 当宮には、毎年大変多くの修学旅行生が来られ、しかも本殿への昇殿参拝をしていかれますが、京都は修学旅行生にも人気の高い街ですね。

糟谷 そうです。京都市が長きにわたって力を入れてきたのは修学旅行の誘致なんです。京都の観光客は八割方が五回以上、十回以上の方も六割ぐらいいらっしゃるほどリピーターが多く、その原点が修学旅行な





北野・西陣界隈の活性化につなげる行事(写真:京の七夕 北野紙屋川会場)



KYOTO NIPPON FESTIVAL共同記者発表の様子(平成28年10月)

んです。北野天満宮さんで丁寧な「おもてなし」して頂いており、京都市としても感謝しています。

―観光客が京都に求めるものは何でしょうか。

糟谷 日本の伝統文化とか精神性のようなものを求めて来られると思います。京都の観光都市としての強みは、宗教施設がたくさんあること、歴史に裏付けされた“ほんまもん”の宝庫というのはいくぶん大きいですね。とくに海外からのお客様は、その傾向が強いのだと思います。

―外国人観光客も多いですね。

糟谷 昨年、京都に宿泊された外国人観光客は、三十八万人。昨年、二千四百四十万人の外国人の方が日本に来られ、京都への訪問率は二十七・五%、日帰りも含めると六百六十万人ぐらいの外国人の方が来られたと推計しています。日本人の観光客もそうですが、人気のある所だけを駆け足で回るのはなくじっくり日本文化を楽しんでもらえるような旅にして頂けるよう願っています。その意味では、昨年十二月、北野天満宮さんの全面協力で行いました「KYOTO NIPPON FESTIVAL」の催しなどは大変素晴らしいと思います。境内という雰囲気の中、単なる音楽イベントではなく書道・お花・食文化と広がり、なかなか入ることのできない上七軒歌舞練場という素晴らしい場所まで提供して頂いたのですから。

―当宮が「京の七夕」の会場に参画して、今年で三年目となりますが。

糟谷 「京の七夕」は、一年に一度願い事を短冊に書いて吊るし、それを焚き上げて頂いて願いを天に届けようというコンセプトで、北野天満宮さんにご参画頂いたことで、催事の品格がより一層高められたと感じています。観光客の皆さんからも、北野・紙屋川会場に感動した、との声が寄せられています。

―当宮を始め界隈の賑わいについてはどうでしょう。

糟谷 今年、北野天満宮や西陣が京都遺産に認定されたので、地域ならではの賑わいや活性化に繋がっていったらと思っています。

―今後の観光政策についての抱負をお聞かせ下さい。

糟谷 私の生まれ育った京都は本当に素晴らしい街です。百人のニーズがそれぞれ違って、探せばきっとそのニーズに合うものを提供できると思います。そうした多くの人のニーズに対応するよう京都の魅力を引き起こし、発信していきたいです。

―最後に当宮で好きな場所はどこでしょう。

糟谷 それは何とんでもござんた。正面からの…。それに御土居も最初に見た時の印象のまま素晴らしい好きです。そうそう、京都観光の中では、二月の閑散期、どうお客さんに来てもらうのか、というのが課題なんです。で、二月の北野天満宮の梅苑がきれいなので、色々な所で、天神さんの梅の種類が多く、どれだけ美しいか、という梅の話をして頂いています。

―どうも、色々ありがとうございます。

大政奉還から百五十周年と北野天満宮

境内に残る維新勤王・山国隊奉納の石灯籠
明治の近代化は菅公精神に基づく「和魂洋才」が推進



御本殿東側に建つ「和魂漢才之碑」嘉永元年（1848）奉納

彫られ、隊員名が刻まれている。

丹波山国隊は、幕末期に結成された農民兵団。山国郷

は皇室の御領地であつた関係から勤王の志高く、慶応四年（一八六八）二月、東征大総督有栖川宮熾仁親王の京都出陣に伴つて京都を出発、倒幕戦に参戦。明治元年十一月、有栖川宮に従つて凱旋している。時代祭で先頭を行く維新勤王隊列のモデルとしても知られている。

当宮に奉納された石灯籠は、凱旋のお礼に八十六両を投じて建立したもの。これも当宮への篤い信仰があればこそで、山国隊は、出陣が決まった際の武運長久の祈願を始め度々当宮へ参詣している。その崇敬ぶりは「東征準備のため、近辺にある椿寺前の茶畑で激しい訓練を繰り返したが、その往反には必ず天満宮へ敬礼して行つた」（仲村研著『山国隊』、中公文庫）と、記されるほど。江戸時代に霊元天皇や有栖川宮韶仁親王から御寄進された石灯籠があるなど当宮が皇室の尊崇が篤かつたことと関係しているとみられる。

本殿東側に建っている「和魂漢才」の碑は、嘉永元年（一八四八）、菅公の末裔に当たる東坊城聡長



山国隊奉納石燈籠

卿の揮毫によつて建立されたもの。「日本固有の精神を以て中国から伝来した学問を活用することが大事だ」とする菅家遺誠の中にある言葉で、菅公の精神とされるものだ。幕末期には、この言葉が盛んに使われた。

明治に入るや「和魂漢才」をもじつて「和魂洋才」という言葉がつくられ、外国から学んだ知識を活かしながら単なるマネではない日本の良さを活かした技術や文化が次々生み出され、それが明治の急速な近代化に大きく寄与したといわれる。

それだけではない。江戸末期には全国に一万五千もの寺子屋があり、庶民の教育水準の高さがその原動力となつているが、天神さまの肖像を掲げた寺子屋の絵も残されており、「学問の神」の果たした影響力は極めて大きいといえる。



現在の霊元天皇石燈籠(右) 有栖川宮親王石燈籠(左)

徳川幕府が終焉を告げた大政奉還から百五十周年に当たる今年、各地で記念の事業が行われているが、当宮にも「錦の御旗」を掲げて勤王軍に従軍した丹波・山国隊が奉納した石灯籠が残っており、このところ歴史愛好家の注目を集めている。また、諸外国が驚くほどの急速な明治の近代化の背景には「和魂洋才」の精神があつたとされるが、その基は菅家遺誠「和魂漢才」にあり、当宮と維新・明治の近代化は強い縁にあるといえる。

山国隊が奉納した石灯籠は本殿の北西隅にあり「明治二己巳歳春二月念五日建立」「願主山国隊」と



〈特集〉北野天満宮「混迷の一五〇年甦る一五〇年」

—— 皇室と北野天満宮の深い関わり ——

— 平安京ゆかりの「平安道場」

北野天満宮に建立された大正の武徳殿 —



大正天皇の御即位・大嘗祭を祝し「玉座」も設えた大正の武徳殿（平安道場）（大正二年）

本年は、慶応三年（一八六七）徳川家第十五代將軍慶喜公が、「從來之旧習を改め、政權を朝廷に歸し奉り」とする上表を呈し、凡そ二六〇年にわたり続いた行政に関わる権限を朝廷に移譲した「大政奉還」から一五〇年の節目を迎える。

この歴史的大変革は国家の仕組み、理念や価値観、人々の暮らしを大きく変えた。明治維新による近代国家への転換は、連綿と受け継がれてきた歴史や文化、伝統にも大きな影響を与えた。社会の形が急速に変わる中で、神社を取り巻く環境も変化したこの時期はまさに

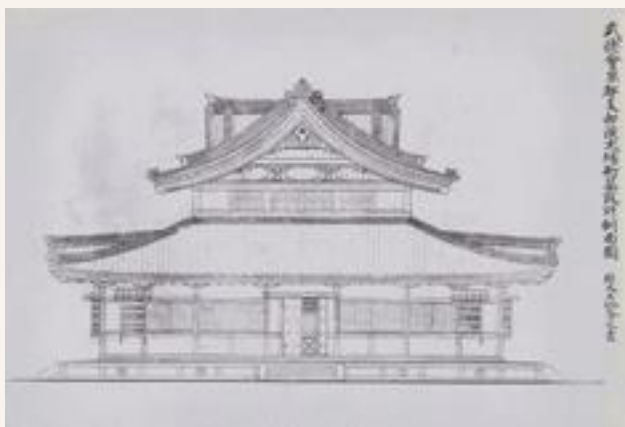
なからず存在する。そのひとつとして挙げられるのが、大正天皇御大典を記念して建立された（旧）大日本武徳会京都支部武徳殿（以下、武徳殿と称す）である。

武徳殿は大正天皇御大典を記念して、今から凡そ一〇〇年前の大正二年（一九一三）十二月に京都府民の寄附により、皇室ゆかりの社として御縁が深い北野天満宮境内に建立され、翌三年（一九一四）二月に落成を祝し、演武場・道場・修練の場として「武道の殿堂」という地位

を確立し、日本の伝統

精神を継承してきた。当宮に残された日誌には、大正三年二月十一日に武徳会京都支部落成式執行との記述があり、大正天皇の御即位・大嘗祭斎行を祝い、殿内には玉座が設えられた。

武徳殿の歴史は千有余年前、桓武天皇が平安京大内裏に建てられた禁裏道場に遡る。桓武天皇はこの道場で武道を奨励し、宮中で執り行う騎射の観覧などを行われた。かつて、平安時代の禁裏道場は大内裏大極殿の西北に位置する宴の松原に建てられていたが、一時期は北野の地に移されていたという。この場所が天神地祇を祀る平安京の天門（西北）に創建された北野社（現在の北野天満宮）である。大正の武徳殿が北野天満宮前に建立された理由には、北野に建てられていた禁裏道場との御縁があった



当宮に残る大正武徳殿の設計図



一ノ鳥居付近 写真左奥に武徳殿入口が映る（昭和三年）

「混迷の時代」と言えるだろう。
当宮も明治から大正、昭和と移り行く中で、混迷した歴史が少

ものと思われる。武道を志す人々の隆昌を見守り続けてきた大正の武徳殿は、「文道大祖 風月本主」と崇められ、文化・芸能の神様と崇敬された御祭神菅公の御神徳のもと繁栄したのである。その後も武徳殿は当宮と共にその歴史を刻んできたが、残念ながら諸般の事情により、現在は北野天満宮境内にその姿を見ることができない。

― 国都形成における西北の重要性 ―

国都建設において西北は重要な意味を持っていた。例えば飛鳥・奈良時代にかけて都とされた難波宮の西北には、大將軍社が建立（現在の大阪天満宮境内）されて国家安泰が祈願された。また平安京造営の際には、陰陽道に依り大内裏（御所）の北西角に星神「大將軍堂」を建て、方位厄災を解除する社として大將軍八神社が創建されている。当宮を含めこれらの神社はいずれも、皇城鎮護の靈験あらたかな社として創建されており、西北の位置が国家国民を守護する上で重要な場所であったと認識されていたのである。大内裏と禁裏道場、御所と大正武徳殿に見られる同様の位置関係が、東京の皇居と日本武道館に当てはまるのも興味深い。

平安京の守護神として西北「天門」の北野社が重要とされてきたように、国都の形成において、鬼門や天門を含む北方を重要視する信仰は、平安京以降平清盛公の福原、源頼朝公の鎌倉、徳川家康公の江戸などにも見られ、平安京が後世の国都建設に大きな影響を与えたと言えるだろう。

平安京の社会構造に相まって形作られてきた北野の文化や信仰は、各時代の人々の暮らしの中で育まれてきた。先人たちが築き上げてきた歴史を継ぎ、時代を検証し、失われつつある信仰を現代に甦らせることは、今後の神徳発揚に重要な意味をもっている。

― 皇室との深い御縁が続く北野 ―

わけでも今日に至るまで連綿と受け継がれる皇室と北野天満宮の密接な関係は、

北野信仰の中核を成すものであり、皇室とのつながりを語らずして、北野の歴史や信仰を語ることはできない。

現在でも当宮で執行する祭典では、畏くも貞明皇后御参拝の古例にない、六月二十五日齋行の御誕辰祭における貞明皇后御寄進花瓶による献花、二月二十五日齋行の梅花祭における皇后陛下の御代拝御参向による御拝礼などの儀礼が執り行われ、全国でも類を見ない皇室との深い御縁が続いているのである。次に紹介する「大嘗祭と北野の関わり」も、北野史における皇室との御縁を表す重要な事柄である。

大嘗祭と北野の関わり

― 『御即位御装束并御祭庭（悠紀主基）図』 ―

京都文化博物館 学芸員 西山 剛

一代一度の天皇の儀礼「大嘗祭」

天皇が即位の後、初めて行なう新嘗の祭のことを、大嘗祭と呼ぶ。その年に新たに収穫された穀物を、天皇みずからが祖神・天照大神をはじめ天地の多様な神々にさし上げる一代一度の大礼である。祭に用いられる新穀は、あらかじめ卜定された悠紀^{ほしき}、主基^{すき}の国から奉られ、祭の日の夜、天皇は新しく造られた大嘗宮の悠紀殿と主基殿で、これを神に供え、みずからも食する。

この大嘗祭、実は北野天満宮とも密接な関わりを持つ。特に貞享四年（二六八七）に行われた東山天皇の大嘗



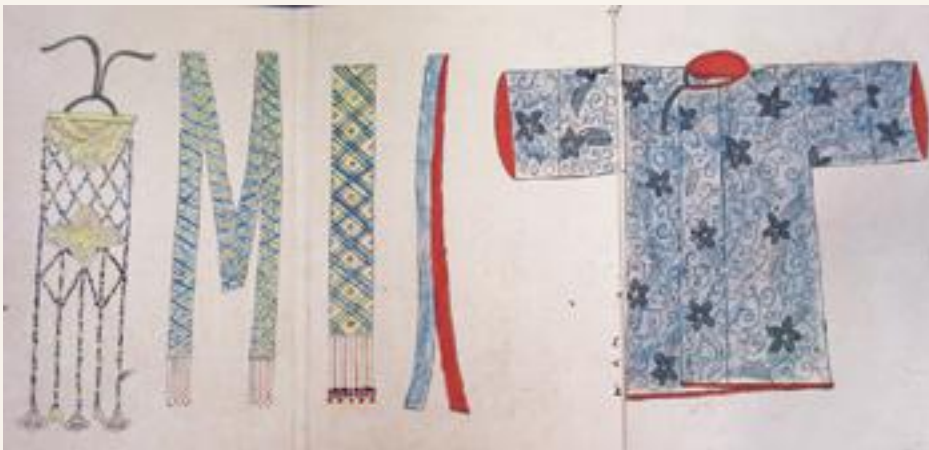
悠紀殿主基殿見取図



御装束類



玉冠



御装束類

祭では、北野天満宮の具体的な関わりが見てとられる。東山天皇の大嘗祭は、二二〇年ぶりの復興であり、朝廷の悲願ともいっていいものであった。この復興に際して天満宮では、即位式にあたって風雨除災や安泰の祈禱、百燈明の奉供、あるいは連歌を用いた法楽行為など、数々

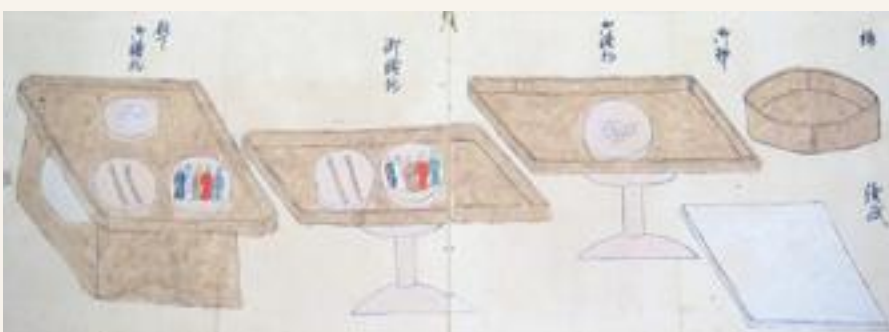
の儀礼を行った。大嘗祭の復興にあたっては、経済的な問題や古儀の消滅など多くのハードルを乗り越える必要があり、そのため社内では、万全を期して、幾重にも儀礼を重ねる必要があったのだ。大嘗祭における重要な祈りの場として北野天満宮は十分にその力を発揮していたことができる。



荒見川贖物

そして九月二十九日に至って、荒見川祓が行われる。この儀式こそ、大嘗祭と北野天満宮との関わりを知る上で最も重要なものである。今回は、この点を中心に、北野天満宮と大嘗祭の関わりを紹介したい。

この大嘗祭に関する史料が、北野天満宮が所蔵する数ある古典籍の中に存在している。『御即位御装束并御祭庭(悠紀主基)図』という書物がそれである。江戸時代中期から後期に成立したものと考えられる本書は、天皇の即位儀礼である大嘗祭において、天皇が着用する装束や、数々の神饌、重要な祭祀場である斎田(悠紀田・主基田)の見取り図を記載している。



御贖物ほか

その意味で本書は、大嘗祭に関する情報を詳細に記した記録書であり、歴史資料的価値は極めて高いといえるだろう。

北野と大嘗祭 — 荒見川祓

本書中、「荒見川贖物」の項目が立てられることは重要である。実は、荒見川とは、北野天満宮の西域を流れる紙屋川の異称であり、荒見川祓が行われる場所でもあった。本書で描写される膳に乗せられた米や人形ひとがたは、当該儀礼で用いられる贖物と考えられる。

大嘗祭において、斎田とすべき悠紀・主基の国郡を亀卜で決定（国郡卜定）した後、北野の地に斎場が設けられ、準備が始められることになる。それに先立って行われるのがこの荒見川祓で、大嘗祭に奉仕する担当役者が日常生活の中で負ったケガレをのぞき、儀礼にのぞむ身体を獲得する儀礼といえるだろう。いわば北野の地は、大嘗祭の開始を告げる重要な祭祀場としての性格を持つのである。



天皇礼服 大袖（背の上方に北斗七星が描かれている）

北斗と大嘗祭

大嘗祭と北斗（北極星、あるいは北斗七星）の関わりは極めて深い。北極星は天皇、北斗七星は宰相と位置づけ、天空の星々（＝人民）を支配し、四季を司り、民の安定を保証する儀式が大嘗祭とする見解もある。それを物語るように、



拝殿の夜景 回転する天体之図

大嘗祭において天皇が着用する大袖には、北斗七星があしらわれている。

このような解釈がなされる一方、北野天満宮が北極星を背負い、回転する天体の中心に

社殿がそびえる事実を忘れてはならない。北野天満宮は平安京大内裏にとつて北方の重要拠点であり、天満宮の信仰においても強く北方や北斗七星がイメージされる。その代表的な例が、天満宮が蔵する「北野宮曼荼羅」である。天神像を中核に据え、北野天神信仰の秩序や構成を一つの画面に描き尽くした本作だが、上方には五つの円相が配置され、仏教的な色彩も備わる。この五つの円相のうちの 하나가、釈迦金輪であり、北斗法の本尊であると同時に天神の化身・同体としても定置されている。

このような天満宮における独特な北斗信仰のあり方が、大嘗祭や荒見川祓とどのような形で結びつくのか。今はまだ明確な答えを出すことができないが、平安京大内裏の北方・北野という地域に寄せられた信仰は、長大な歴史を通して北野天満宮にも如実に引き継がれていることは事実といえるだろう。本書の存在は、北野という地に内在する古代以来の信仰を見通す上でも重要なものであるといえる。



北野社絵図 上段に円相とともに北斗七星を描く

室町時代の北野御手水神事

共立女子短期大学教授

菅野 扶美

秋七月、七夕の天満宮は常のたたずまいから様相を変え、涼しげな青竹に揺れる色とりどりの短冊が、参詣信心の人々を参道から境内へと誘う。新暦七夕から旧暦お盆まで星祭の夜毎の興宴である。七月七日当日は、午前に御手水神事が本殿でおごそかに行われ、午後には中ノ森広場で、棚機津女神（織姫）に供物を捧げる七夕祭の美々しい飾りつけに、境内が華やぐ。

室町時代の天満宮でも七夕祭は賑わったようで、狂言「太刀奪」は「今日（きょう）は北野のおてうづのゑで御座ある程に参らふ」と小名（しょうな）が太郎冠者を呼び出し北野社へ向う途次、立派な太刀を持つ「是もおてうづへ参る」者を見て、何とかその太刀を奪おうとするどたばた劇だが、狂言の舞台になるほど、北野社の七夕祭は「御手水の会」と呼ばれて、京の民衆に親しまれていた。

一方で、神事自体は今日でも極々内部で行われ窺うことができない。七夕神事は一般にどの神社でも行うものだが、室町時代に北野天満宮で行われていたそれは、どことも違うものであったらしいことが当時の記録から読み取れる。神事の次第書きや当時の北野社家日記等も合わせて、以下、室町末期の御手水神事を復元してみよう。

まず特筆すべきはこの神事が「北野に於ては第一の重事」（『満濟准后日記』永享四（一四三二）年五月二十日条）と目され、北野社の中でも「神道深秘」として代々受け継がれていた点である。北野社の大半が焼かれて今年（けつねん）は御手水神事を斎行できないと神事奉行に届け出た時（『北野社家日記』延徳二（一四九〇）年七月六日条）も、必ず執行せよと幕府から厳しく言い渡されたくらい、欠くべからざる行事であったようだ。それ

は当時の御手水神事の目的の一つが、御水取り・御水配りにあつたことも関係している。

七月六日に井戸浚えして新しくした閼伽井（あか井）の水を汲み上げ、神前で御手水として供えられることで御香水（おこうずい）（神仏に供えられる神聖な水）となる。その水は本殿の神仏（当時は神仏習合だった）に捧げられるほか、公方様（足利将軍家）をはじめ、曼殊院や天満宮構成員にその日の内に配られた。その水は服せば全身の穢れを払い、すこやかな体を保証するという。現在でも境内には、枯れたものを含めても二十近い井戸があるが、そのどれが御手水の水を提供していたのだろうか。

神事は前日から始まるが、一貫してこれに従事するのは神殿大預と小預の二人のみである。前日六日は内陣の掃除が主な仕事で、小預が担当するが、外では西の京の者たちが井戸浚えにあたっている。

七日未明に大預は行水して身を清めた後、蠟燭を持って内陣に参上す



松風の御硯



金蒔絵の角盥と梶の葉



金蒔絵の水指



七夕御神事秘文

る。この日内陣に入れるのは大預だけである。宝物の入った櫃を開けて手水盥・椀（水指）・簀子等を取り出し、内々陣の前にしつらえられた棚に置くが、この棚にはこの他に、硯と硯箱、硯箱の蓋には料紙五枚を重ねて置き、更にその上に梶の葉七枚をこれも重ねて置く。墨・筆も添えてこれら用意が整うと、小預が「程なく神事の間、人しづまり、神殿中の火消し候」と触れ、一切の火が消された暁闇の本殿内陣で御手水神事が行われるのである。

次第書きには、水の入った椀から簀子をかけた手水盥へと水を注ぐことを七回行うが、一回につき六度また七度に分けて注ぐとある。この神前で椀から手水盥へと水が注がれる過程が御手水神事という儀礼で、これによって水は聖水となるのだろう。一回毎に聖水で満たされた手水盥は外に控える小預に渡され、それは小筒に詰め替えられて各方面に分配されるのである。

白々と明けてくる内陣には椀から注がれる水音が響くが、同時に、大預は唱え言を口にする。そのことばは通常の祝詞や祭文ではない。菅原道真作の漢詩と和歌を誦するのである。この唱えごとを記した北野天満宮蔵「七夕御神事秘文」（上掲写真）には、『北野天神縁起』中の高山で唱えた七言絶句の祭文と道真作とされる和歌五首が記されている。

更に、もう一種別の水が大預に届けられる。芋の葉に置いた露である。

大預は芋の葉の底を破って露を硯に入れ、その露の水で墨をよくよく磨って筆に付ける。それらに件の料紙と梶の葉を添えて、内々陣の御簾を二十糎ほど上げて中に差し入れる。ここに本神事の真髄がある。

内々陣に祀られているのは天神であるが、それと同時に、御手水神事の対象としては「文道之大祖 詩境乃本主」たる菅原道真公その人である。内々陣に差し入れられた筆硯、料紙や梶の葉は、さあ作詩・詠歌をお続け下さいとの促しであり、道真の詩歌を神事の唱え言として声にのせるのは、あなた様の作品の数々は、こうしてこ北野の地において誦され続けておりますとの敬いであろう。

七夕は古来清い水に関わる祭りであるし、梶の葉や短冊に文字を書いて技の上達を願うことも、古くからの習俗である。しかし北野社ではこの日の神事を、関伽井の水と芋の葉の露という二種類の異なった水を媒介にして、他ならぬ祭神道真公自身の作品を唱えつつ、更なる詠作を神に勧める場として演出していたのである。

室町時代に行われていたこうした神事の次第は、当時のどういう願望のあらわれであったのだろうか。今に受け継がれる神事から遙か昔を思う。



『北野天神縁起』祭文を捧げ天道に訴える道真公

共立女子短期大学教授
〈専門〉日本中世文学・宗教・芸能等

重儀 北野御手水神事 齋行

きたのおちょうずしんじ

例祭（北野祭） 八月四日 午前九時 齋行

永延元年（九八七）、一條天皇が初めて北野祭を勅祭として齋行された日に当たり、一年で最も大切な祭典。

御手洗祭前夕饌 八月六日 午後四時 齋行

御手洗祭に先立ち神前を清め、菅公御遺愛の松風の硯、角盥、水差しを祓い、翌日の御手洗祭齋行を御祭神に奉告申し上げる祭典。

御手洗祭 八月七日 午前十時 齋行

神前に菅公御遺愛の松風の硯を始め、角盥・水差し（何れも手水器）・梶の葉（古くは短冊の代用品として使用）を七枚、そして季節の物として、ナス・キュウリ・マクワ等の夏季野菜や、素麺・御手洗団子をお供えして祭典を執行する。

「願い」をテーマに新たな京都の夏の風物詩を作ろうとオール京都で取り組む「京の七夕」行事に本年も「北野天満宮・北野紙屋川会場」として参画する。

平安遷都より千有余年に亘り日本の歴史・文化・伝統の中心である京都、その天門にあたる乾（北西）の地に創建された北野天満宮の信仰は京都のみならず全国に広まっている。

ここ数年来、当宮では創建以来の天神信仰の変遷、神事等の調査・研究を行い、来る平成三十九年に斎行する千百二十五年半萬燈祭に向けて境内整備を行うとともに、当宮にとって歴史的に重儀であった神事等を現代に復活・再興しているが、わけても古来より「北野御手水神事」として重要視されてきた「北野御手洗祭」の再興は、当宮信仰上極めて重要な事柄であり、神徳宣揚につながる重儀と位置付けている。

このような中で昨年は正式に「京の七夕」北野天満宮・北野紙屋川会場として参画し、多くの参拝者・観光客の方々に天神信仰の一端をご覧頂くとともに、上七軒をはじめとする北野界限、地域一体となった取り組みを実施することができた。本年は更に充実した内容を盛り込んだ七夕行事を開催する。

期間中は第三回北野天神泣き相撲、七夕五色百人一首大会や上七軒盆踊りなど、昨年同様の行事は勿論のこと、大政奉還一五〇周年記念として「天神さん子ども将棋大会」や人気の伝統芸能「猿まわし」などの新たな行事を加え、北野の地で生まれた信仰と文化を人々に発信し、更なる京都の発展と地域の活性化、コミュニケーションを図っていく。さらに昨年実施した国宝御本殿石の間通り抜け神事を本年は八月十一日から十三日までの三日間に限り、御手洗川足つけ燈明神事は開催期



展覽（虫干し）された御神宝・御装束類





境内に飾られた七夕笹の数々



御手洗川足つけ燈明神事の様子

間全日に亘って行なうなど、信仰と観光の両面を北野ならではの文化行事を通して展開する。
 本年も京都市をはじめ参画の各会場と連携し、地域住民の理解と協力のもと、京都の夏を盛り上げていきたい。

御手洗神事にあわせ御神宝・御装束の虫干し

——御本殿石の間通り抜け神事——

北野では七夕神事を「御手洗祭」と称して斎行し、古来より初秋にあたる四季祭のひとつと数え、大祓神事を意味する重儀として位置づけてきた。

御手洗祭は、内陣に松風の硯・角盥・水差し・梶の葉を供え、古くは祭典中に角盥の上で梶の葉に水差しの水をかける儀式があり、梶の葉は詩歌の短冊代わりとするのは勿論のこと、その葉形が人手の形に類似することから、葉に水をかけるのは「御手洗い」の形を奉仕するものと捉えた。故事によれば御手洗祭前数日に亘り、内陣の御掃除を行い、内陣に供わる御祭神の御装束類を祓い清めて虫干しを行い、前三日は一切精進齋、前日夕は社中一同参籠し翌日の御手洗祭に奉仕したと伝わる。

本年も昨年に続き、御本殿石の間を特別公開し、御神宝類・御装束を虫干しの意味を含めて特別公開し、御内陣の御開帳と石の間の通り抜けを行う。

平安京ゆかりの清め神事——御手洗川足つけ燈明神事——

平安京の大内裏は現在の千本丸太町付近にあり、大宮御所の御用水は衣笠山（現在の金閣寺辺り）を源泉として北野社東側（当時の西大宮川）を経て、北野神域で清められて宮中の御用水として用いられた。北野は清水に守られた境内であり、そこから誕生した平安京と北極星瞬く北野天満宮は、三辰信仰（太陽・月・星に対する信仰）の聖地として讃えられている。

平安の御代から続く清め神事の性格を有する北野御手洗祭の再興にあたり、御手洗川で足の清めと五色御手洗ろうそくの献燈を行い、御神霊のお慰めと祓い神事を斎行する。



七夕に願いを込めて

七月十五日(土)～八月三十一日(木)
宝物殿特別公開 宝刀展VI伝説の太刀「髭切」



夏休み期間中、特別展「宝刀展VI―伝説の太刀 髭切」と題し、当宮に奉納された御神刀を特別公開する。
古くより菅公は文武両道の神として崇められ、武運長久を祈願するため名立たる武将が北野を参詣し、多くの刀を奉納した。
当宮所蔵最古の太刀「鬼切丸」別名髭切(重文)をはじめ、豊臣秀頼公ご奉納の太刀「國広」(重文)や加賀前田藩ご奉納の太刀「恒次」(重文)・太刀「助守」(重文)・太刀「師光」(重文)など凡そ三十振の刀を一堂に公開し、天神信仰の一端をご覧頂く。

八月五日(土)～八月十六日(水)
境内夜間特別参拝と史跡御土居のライトアップ



期間中は特別に境内夜間参拝と史跡御土居のライトアップを実施。
七夕笹で飾られた境内一円をライトアップの光が照らし幻想的な雰囲気演出。七夕の夕べを盛り上げる。



七夕特別奉納行事 ～迫力のパフォーマンスを披露～

八月 五日(土) 同志社女子大学『京炎そでふれ!花風姿』演舞奉納
八月 六日(日) 舞踊家 佳卓(創作新日本舞踊佳卓流家元) 舞踊奉納
八月十三日(日) 北野天神太鼓会 和太鼓奉納
八月十一日(金)～十三日(日) 日本伝統芸能『猿まわし』奉納



同志社女子大学『京炎そでふれ!花風姿』



舞踊家 佳卓(創作新日本舞踊)



北野天神太鼓会



日本伝統芸能『猿まわし』

八月六日(日)
大政奉還一五〇周年記念
天神さん子ども将棋交流大会



日本の伝統文化への関心を高め、子供たちの将来に向けて健全育成に寄与するため、天神さん子ども将棋交流大会を開催する。本年は大政奉還から一五〇年の節目にあたり、先人たちの築き上げてきた歴史に学び、大政奉還以後の学問や教育が国家発展の根幹となり、その礎となった天神信仰発祥の地・北野天満宮で、白熱の対局を行う。

八月十二日(土)
七夕五色百人一首
北野天満宮大会



学問・文化芸能の神様である菅公にありかたの百人一首大会を開催。参加の子供たちの健やかなる育成と技芸の上達、日本文化の発展を祈願する。

八月五日(土)

第三回「北野天神泣き相撲」
知恵を授かり、明るく元気な子供に！



旧暦の七夕にあわせて、文武両道の天神様に子供の健全な成育と健康安全を祈願する「北野天神泣き相撲」を開催。子供は国の宝であり、親にとってもかけがえのない宝。生まれてきたお子様が天神様の御神徳をお受けになり、これからの成長無事に、天神様の御加護で知恵を授かり、将来立派なお子様になるよう祈念する。



八月十三日(日)

学業大祭 お子様の学業成就・入試合格祈願
祈願絵馬・七夕祈禱木焼納式
〔天神さまに願ひ届け〕

夏休みで勉学に励む子供たちの入試合格・学業成就を祈願する学業大祭を執り行う。(おさがり：合格鉛筆1本) また奉納された祈願絵馬などを厳肅にお焚き上げする焼納式を行い、皆様の願いが天神様に届くように祈念する。



八月十一日(金・祝) 上七軒七夕盆踊り



北野天満宮のお膝元、花街・上七軒で毎年行われる盆踊りは、地域住民が参加しての盛大な夏の行事。西陣音頭に合わせて、上七軒の芸妓さんや舞妓さん、氏子地域の皆さんが参加できる地域挙げてのお祭りである。

八月十一日(金・祝) 八月十三日(日)

御手洗団子発祥の北野 北野御手洗団子茶屋



北野天満宮の東に佇む上七軒は、文安元年(一四四四年)室町幕府の頃、社殿御修築の残材を以て、東門前の北野松原に七軒の茶店を建て、参詣諸人の休憩所としたところから、人呼んで「七軒茶屋」と称したのがその由来である。その後、天正十五年(一五八七年)豊臣秀吉公が北野大茶湯を催した際、この七軒茶屋を秀吉公の休憩所に充て、名物の御手洗団子を献じたところ、いたく賞味に預り、その褒美として七軒茶屋に御手洗団子を商うことの特権と、山城一円の法会茶屋株を公許したのが、我国に於けるお茶屋の始まりであると伝えられている。

現在、上七軒花街が五つ団子の紋章を用いるのは、実にこの名物御手洗団子に由来するものであり、北野御手洗神事にあわせ「北野御手洗団子茶屋」として往時の茶店を復元し、上七軒の芸舞妓さんが御手洗団子を振る舞う。



菅公御歌

このたびは幣もとりあへず手向山

紅葉の錦 神のまにまに

御本殿西側 手向山のもみじ

錦秋の北野を舞台に、 菅公ゆかりの文化行事を発信

境内西側には、天正十九年（一五九一）豊臣秀吉公が洛中洛外の境界、また水防のために築いた土塁「御土居」の一部が残存しており史跡に指定されている。現在でもかつてからの自然林が多数残り、四季折々の美しさが感じられ、中でも秋の紅葉は菅公がこよなく愛でられた樹木のひとつで、御土居一帯におよそ三〇〇本。樹齢三百五十年から四百年に及ぶ古木が姿を残すなど、北野の御土居は菅公の御神徳を偲ぶもみじが鮮やかに色づく歴史的遺構である。

さらに開苑期間中は、昨年完成した「紅梅殿船出の庭」と今秋竣工する「文道会館」を中心に様々な文化行事を行う予定。

中でも十一月三日は、崇敬会「北野天満宮講社」の講社大祭にあわせて、昨年再興した朝廷ゆかりの「曲水の宴」を開催する。

「曲水の宴」は、境内西側「船出の庭」に流れる小川に酒を入れた杯を流して飲み、題に即した詩を賦す宴で、中国から日本に伝わり、奈良・平安時代盛んに行なわれた。宇多天皇に重用された菅公は、記録で確認できるだけでも四回、宇多天皇主宰の「曲水の宴」に招かれ、その際に創られた詩文も幾つか残されている。当宮では、昨年千玄室天満宮講社会長（裏千家大宗匠）を始めとする有識者による「菅公曲水の宴保存会」が組織され、様々検討を加えて、千百余年ぶりの再興が実現した。

また東京オリンピックに向けて日本文化を京都から世界に発信する「KYOTONIPPON FESTIVAL」は今回も北野天満宮をメイン



紙屋川に色づくもみじ

平成二十九年

■ 史跡 御土居のもみじ苑

〈期間〉

十月二十八日（土）～十二月三日（日）

〈時間〉 午前九時～午後四時

■ もみじ苑

特別ライトアップ

〈期間〉

十一月十一日（土）～十二月三日（日）

〈時間〉 日没～午後八時

〈入場料〉 茶菓子付き

大人七〇〇円、こども三五〇円



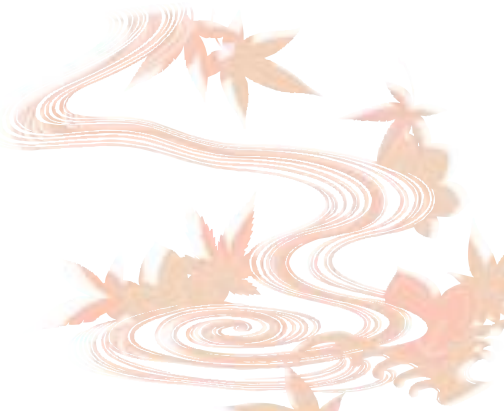
12月1日 北野大茶湯ゆかりの献茶祭
(当番 表千家久田家)



11月26日 古式ゆかしく御茶壺道中
並びに御茶壺奉献奉告祭斎行



11月3日 朝廷ゆかり曲水の宴開催
(白拍子奉納)



11月3日 紅梅殿船出の庭(曲水の様子)



史跡御土居展望所から見る国宝御本殿のライトアップ



KYOTO NIPPON FESTIVAL
満員の観客で盛り上がる紅梅殿 LIVE

会場として実施。
日本文化の礎となった天神信仰の発祥地「北野」から文化・音楽・食の魅力を国内外に発信しよう、との意気込みで始まった「KYOTO NIPPON FESTIVAL」。昨年は十二月三、四の両日、当宮と上七軒歌舞練場を会場に開催し、二十組以上のアーティストによるライブを始め、いけばな・書道・香の体験コーナー、さらには数々の食の店が並び、両日とも多くの参拝者で賑わった。

御祭神の菅公は、学問・書・芸能などの神として崇敬され、境内は歴史的に名高い「北野大茶湯」の舞台。日本文化との繋がりは極めて深い北野の地で、京都の魅力を国内外に発信するのが、「KYOTO NIPPON FESTIVAL」の狙いである。

今秋も「史跡御土居のもみじ苑」をはじめ多彩な文化行事を展開し、多くの拝観者、観光客のご参拝をお待ち申し上げる。



日本の文化・食・音楽の魅力を世界に発信
KYOTO NIPPON FESTIVAL 開催

梅風会だより

大阪天満宮を主会場に
第五十一回全国天満宮梅風会開催



全国天満宮梅風会第五十一回の総会が、六月二十日・二十一日の両日に亘り大阪天満宮を主会場に全国より約百八十名の会員が参加して開催された。

二十日正午より大阪天満宮にて正式参拝のあと、境内北側に隣接する天満天神繁昌亭へ場所を移して開かれた総会では、平成二十八年度の活動経過及び会計報告がなされたほか、次年度担当の梅風会福岡県支部より次回開催に向けて挨拶が行われた。引き続き、繁昌亭ならではの落語鑑賞が行われ、上方落語を堪能。その後一行は洲本温泉に移動し、会員相互の懇親を深めた。

二十一日は、淡路國一宮である伊弉諾神宮へ正式参拝、また徳島県鳴門市の大塚美術館などを見学し、淡路の美しい自然と歴史・文化に触れる充実した研修を行った。



北野天満宮交通安全フェスタ

スーパーカー展示／車輛トークショー／交通安全啓発パレードを開催！

「交通安全祈願は北野天満宮で」と、五月、「牛」のエンブレムで知られるイタリア製のランボルギーニを始めとする往年のスーパーカーが勢揃いしたのオーナー参拝が相次いだ。

十四日は、ランボルギーニの愛好家（西川淳代表）の企画による「スーパーカー・ヘリテージ・ギャザリング2017 in 京都」の催し。「昨年はランボルギーニのクラシック車に限定しての参拝だったが、今年は車種をほぼ変えての参拝となった」（西川代表の話）という。

午前十時ごろから続々駐車場に参集したスーパーカーは、ランボルギーニを始めフェラーリなどの外国車に混じり、国産車のトヨタ2000GT（1967型）など二十五台。各車のオーナーが昇殿参拝し、交通安全の祈願を受けた後、スーパーカーもお祓いを受けた。

交通安全フェスタ開催

主催者側が事前にネットで開催告知していたこともあり、当宮には多くのスーパーカーファンや参拝者が集まり、車を覗き込んだりカメラに収めていた。スーパーカーの送迎には神若会北野天神太鼓会が交通安全を祈願して和太鼓を奉納した。

多くの人が集まるこの催しを絶好の機会と捉え、京都府警もパトカーや白バイを繰り出し「道路を渡る時には交通ルールを守りましょう」とマイク放送するなど、交通安全の啓発活動に務めた。

また、二十一日には関西アヴェンタ会（川原浩二代表）による催しで、ランボルギーニの限定車二十台が集結し、オーナーが昇殿参拝、交通安全の祈禱を受けた。



地域一体となって交通安全・防犯活動



上七軒老松の菓子を記念に受け取る運転手たち

神若会北野天神太鼓会 十周年を記念し献木、奉納奉告祭



献木 しだれ梅



本殿奉告祭・感謝状贈呈

神若会北野天神太鼓会（竹内勤会長）が創設十周年を記念し、紅梅殿船出の庭の御手洗川畔に立派な梅木を献木。五月十四日、本殿で奉納奉告祭を斎行した。

奉告祭の後、献木した木の前に集った祭典参列の会員に対し、橘重十九宮司が「十周年を記念し、立派な木を献木して頂き、感謝しています。皆さんが叩く太鼓の音は太古から宿る神社の気を鼓舞するものであり、大変有難く思っています」と、感謝の言葉を述べた。

竹内会長は「わずかな人数でスタートした太鼓会が、十年経って人数も大幅に増え、地域の人に期待されるほど成長しうれしい。十年を踏み台にしてさらに飛躍したい」と語った。

太鼓会は十年前、当宮崇敬者の若者ら数人で結成された。周囲から「師範」と呼ばれる野々口匠さんを指導者に迎え定期的に練習を重ねるとともに毎月二十五日の縁日を始め当宮の様々な行事で奉納演奏、さらに地域の催しなどにも招かれて演奏を行うなどして腕を磨いてきた。

こうして十年。技術の到達に伴い、演奏出来る演目数も大幅に増え、今や会員数も約五十人の大所帯となった。献木は、記念誌発行（今秋）とともに太鼓会十周年の記念事業。

なお十月には、完成する文道会館で十周年記念の公演が予定されている。



メンバー全員で植樹

境内に紙屋川の水タル舞う



境内西側に流れる紙屋川の水タルを保護する取り組みが実を結び、今年は菅公ゆかりの船出の庭に紙屋川の水タルが舞った。

当宮では十年ほど前より、境内西側の「史跡御土居」を流れる紙屋川一帯でホタルが見られるようになったため、ホタルの自生と境内の整備に取り組んできた。

豪雨や台風などの影響により、一時はホタルが減るなど困難な状況もあったが、周辺の環境整備を進めるとともに、職員がホタル自生への地道な取り組みを継続した結果、昨年十一月にホタルの幼虫を船出の庭に戻したところ、五月十三日に始めてホタルの飛翔を確認。数十匹のホタルが、御手洗川付近に飛び交った。



地域の小学生たちとホタルと環境の授業



氏子区域の朱雀第四小学校で五月十日、ホタルの自生と自然環境について学ぶ勉強会が行われ、当宮の神職・巫女が参加した。三年生の生徒らとともに、ホタル成育の取り組みやホタルの生態、環境整備についてなどをテーマに意見を交換し学び合った。

朱雀第四小学校では、数年前より校庭に川を造り、ホタル自生の取り組みを子供たちが積極的に進めている。

無実の喜びを神前に奉告

晴れやかに明祭を齋行

菅公の冤罪が晴れた日に当たる四月二十日、その喜びを神前に奉告する明祭を本殿において午前十時から齋行した。

菅公は従二位右大臣の位にあった昌泰四年（九〇一）正月、左大臣藤原時平の讒言により無実の罪をきせられ、大宰権帥に左降され、二年後の延喜三年（九〇三）二月二十五日、失意のうち大宰府で薨去された。しかし、二十年後の延長元年（九二二）四月二十日、冤罪は晴れて右大臣に復され、位も一階級上げて正二位を追贈、左降の文書はその日のうちに焼却された。

なお、正暦四年（九九三）六月には正一位左大臣を、同年閏十月には太政大臣を追贈されている。

茶祖は江戸時代の賣茶翁

賣茶本流献茶式



煎茶の賣茶本流献茶式が四月九日午前十時から本殿で齋行された。

賣茶本流は、賣茶翁の名で呼ばれた江戸時代中期の高遊外を茶祖とする煎茶道で、当宮での献茶式は昭和二十七年以来、毎年執り行われている。

亀仙会社中の方々が参列される中、家元の渡邊琢祥宗匠の奉仕により煎茶が神前に献上された。式典後、明月舎で茶席が設けられた。

賣茶本流献茶式



明祭

文子天満宮例祭

神輿が氏子区域を巡行



神幸祭

末社文子天満宮の例祭が四月十三日から十六日まで四日間にあたり齋行された。

文子天満宮は、当宮の創建にたずさわった多治比文子が最初に菅公をお祀りした宅地跡を霊地として建てられたが、明治初期に境内の現在地に遷された。例祭は、地域の人たちから「文子さん」「文子まつり」と呼ばれて親しまれている。

神幸祭の十三日は、午後二時から文子天満宮前で祭典を齋行、御神霊が遷された神輿は、神職や西之京瑞饋神輿保存会の人たちのお供によって同天満宮御旅所（上ノ下立売天神筋上ル）まで渡御した。

還幸祭の十六日は午後一時から御旅所で祭典後、再び神輿は保存会の人たちに護られて氏子区域を巡行、文子天満宮へ還幸した。

還幸祭



献酒祭斎行

酒造りの安全と業界の繁栄を祈願

酒造りの安全と業界の繁栄を祈る献酒祭を五月十七日午前十一時から本殿で斎行した。

室町時代、西ノ京の当宮神人に麴づくりの特権（北野麴座）が与えられた縁で酒造関係者の崇敬が続いている。

酒造会社や酒造組合の代表らが参列し、玉串を捧げてよい酒が出来たことに感謝し、酒造りの安全と業界の繁栄・関係者の息災を祈願した。



□ 献酒頂いた酒造会社・酒造組合は次の通り。（順不同）

佐々木酒造・松井酒造・宝酒造・増田徳兵衛商店・豊澤本店・黄桜・東山酒造・齊藤酒造・北川本家・山本本家・月桂冠・山本勘蔵商店・京姫酒造・平和酒造・藤岡酒造・キンシ正宗・玉乃光酒造・鶴正酒造・都鶴酒造・招徳酒造・城陽酒造・丹山酒造・関酒造・大石酒造・長老・羽田酒造・浪乃音酒造・平井酒造・古川酒造・太田酒造・暁酒造・松瀬酒造・矢尾酒造・喜多酒造・愛知酒造・藤居本家・沢の鶴西日本支店・白鶴酒造大阪支社・本野田酒造・日本盛・北山酒造・白鷹・松竹梅酒造・辰馬本家酒造・國産酒造・万代大澤醸造・大澤本家酒造・大関・今津酒造・櫻正宗・菊正宗酒造・小山本家酒造・灘浜福鶴蔵・剣菱酒造・安福又四郎商店・福徳長酒類関西支店・木下酒造・福光屋・三宅本店・奈良豊澤酒造・北島酒造・伏見酒造組合・滋賀県酒造組合・西宮酒造家十日会・灘五郷酒造組合

献酒祭

青柏祭

柏の葉にご飯を包んで神前に供えて、日々の神恩に感謝し、無病息災を祈願する青柏祭を六月十日午前十時から本殿で斎行した。

柏の葉は古代より祭事に用いる神聖なものであり、青柏祭は季節の変わり目の神事。

青柏祭



「雷除大祭」賑わう

摂社火之御子社の例祭

「雷除大祭」の呼び名で知られる摂社火之御子社の例祭を六月一日午前四時から斎行した。

火雷神を祀る火之御子社は、当宮が鎮座する前から「北野の雷公」と称されてこの地にあった古社で、雷電・火難・五穀豊穡の守護神として朝廷からも篤い崇敬を受けた。今でも雷除けの信仰は強く、例祭では電力会社員・電気工事従事者・釣り人・ゴルフ愛好者の参拝が多い。

祭典は開門前の午前四時、暁闇の中で斎行し、雷除けのお札・お守のお祓いをし、五穀豊穡を祈願した。このお札・お守は、午前五時の開門とともに授与されたが、終日、参拝者で賑わった。絵馬所では、この日の恒例となっている京都産業大学「落語長屋」による落語奉納が行われ、参拝者を笑いに誘った。



雷除大祭



宮渡祭を齋行



宮渡祭

御祭神・菅原道真公が北野の現在地に鎮座された日に当たる六月九日、午前十時から本殿で宮渡祭を齋行した。
大宰府の地で薨去された菅公の御神霊より「北野の地に鎮まりたい」と、西ノ京に住む多治比文子、近江比良宮神主の子、太郎丸に託宣が下り、天暦元年（九四七）六月九日、都の乾に当たる北野のこの地に社殿を創建した。宮渡祭は、往時を偲ぶ祭典。

二條流献茶式

二條雅莊家元がお点前

煎茶道二條流の献茶式が六月十一日午前十時から本殿で齋行された。
雅悠会社中の方々と約百人が参列される中、二條雅莊家元によって厳かにお点前が行われ、煎茶が神前に捧げられた。式典後、明月舎に茶席が設けられた。

二條流献茶式



「大福梅」の梅の実採取



正月の縁起物「大福梅」となる梅の実の採取が六月九日から境内一円で行われ、例年通り約一週間で約二・二トンの梅の実を収穫した。

境内には約五十種・千五百本の梅の木があり、京都市内随一の梅の名所として知られる。「大福梅」は、正月の祝膳の縁起物として人気が高く、梅の実の摘み取り作業は、毎年この時期に神職・職員、崇敬者らによって行われている。

梅の実採取



台所の守護神

竈社例祭

当宮東門内北に鎮座する竈社の例祭を六月十七日に齋行した。
竈社はもともと天満宮の御供所のかまどに祭られていた台所の神々をお祀りしており、社殿の床下には昔から使われてきた大釜が納められている。本年も各家庭の守護を祈念し、厳粛に祭典を行った。

竈社例祭



夏越天神賑わう

無病息災を祈って「大茅の輪くぐり」
本殿では厳肅に御誕辰祭を斎行



御誕辰祭

取り付けられた直径約五メートルという京都では最大級の大きさの「大茅の輪」を次々くぐって盛夏の健康と一年間の無病息災を祈っていた。

この日は、朝から今にも降りだしそうな空模様だったが、雨が降り出したのは夕刻からで、それまで参道にはいつも通り多くの露店が並び、参拝者の列が途絶えることなく続いた。

御誕辰祭は、午前九時から本殿で、もぎたての梅などをお供えし、前夜より参籠、斎戒していた宮司以下の神職によって厳肅に斎行された。祭典の後、菅公の母君を祀る伴氏社を巡拝した。

大茅の輪くぐり



菅公の御誕生日に当たる六月二十五日、御誕辰祭が本殿において厳かに斎行された。楼門では、この日の恒例である「大茅の輪くぐり」が行われ、参拝者で終日大賑わいだった。

菅公は、承和十二年（八四五）六月二十五日、文章博士菅原是善公の第三子として京都で誕生され、延喜三年（九〇三）二月二十五日、大宰府の配所で薨去された。毎月二十五日を「天神さん」の御縁日とするのは、それにちなむものだが、とくに六月の縁日は「夏越天神」とも呼ばれ、盛夏を控えて楼門に取り付けた大茅の輪をくぐって厄除けと無病息災を祈る信仰が定着している。

「大茅の輪くぐり」は、午前五時の開門とともに

行われた。参拝者は、楼門に

夏越の大祓式を斎行

七百人が参列、邪気を祓う



夏越の大祓式



夏越の大祓式が六月三十日午後四時から本殿前中庭で斎行された。今年半年間に身についた罪や穢れを祓い清め、すがすがしい気持ちで夏を越すことを願う神事で、崇敬者・参拝者約七百人が参列した。全員で大祓詞を奏上した後、それぞれが切麻を撒いて邪気を祓った。この後、神職を先頭に参列者が中庭に設けられた背丈ほどの大きさの茅の輪を古式通り三度くぐって元気に夏が過ごせるように祈った。

また、この半年間に納められた人形・車形代なども唐櫃に入れられ、神職が担いで茅の輪をくぐった。

史跡御土居「もみじ苑」の青もみじ公開賑わう 黄金週間初日は神若会が太鼓奉納で参拝者を歓迎



新緑の史跡 御土居

史跡御土居「もみじ苑」の青もみじ公開が四月十五日から五月三十一日まで行われたが、今年で三年目を迎えて市民や観光客に周知されたこともあり、これまでにない賑わいを見せた。大型連休初日の五月三日には神若会北野天神太鼓会が“青もみじ太鼓”を奉納し、参拝者を歓迎した。

豊臣秀吉公が築いた御土居には約三百本のもみじがあり、史跡に指定されている。春の梅苑、秋のもみじ苑の開苑中のみ公開していたが、「他の季節にも公開してほしい」との要望が他府県の参拝者から強く寄せられていたため、一昨年から宝物殿特別公開に合わせ若葉が美しいこの季節に「青もみじ」として公開している。

三年目を迎えた今年は、際立った賑わいを見せ、多くの参拝者が入苑し、陽光に映えるもみじの若葉の下での散策を楽しんだ。埼玉県から来たという夫婦は「連休を利用しての京都観光でしたが、教科書でしか知らなかった御土居の中を歩けるなんて感動しました。もみじの若葉が美しく、心洗われる思いがしました」と、感激の表情で話された。

神若会北野天神太鼓会の“青もみじ太鼓”の奉納は、五月三日午後一時から一の鳥居前で行われた。「祝い太鼓」「一心」など予定されていた七曲を披露したが、約二百人の聴衆のアンコールに応え、新曲「山呼（さんこ）」を演奏、青もみじ公開を盛り上げた。



国宝 御本殿



一の鳥居前 青もみじ太鼓を披露

春期非公開文化財特別展を開催

初公開「北野・東山遊楽図屏風」が注目される

「宝刀展Ⅴ」併催で、宝物殿は連日人の波

京都古文化保存協会の「春期非公開文化財特別展」が四月二十八日から五月七日まで開催されたが、当宮では宝物殿で江戸時代前期制作の「北野・東山遊楽図屏風」が初公開され、注目された。宝物殿では人気の宝刀の数々を展示した「宝刀展Ⅴ」（四月十日～五月三十一日）が開催中であり、また、青もみじ公開中とあって連日大勢の人たちで賑わった。

「北野・東山遊楽図屏風」は、二十五年前、さる崇敬者から奉納されたもので、今回の特別展での初公開となった。

右隻に祇園社、建仁寺、清水寺といった東山界隈が描かれ、左隻には北野天満宮を配置した六曲一双の本間屏風。それぞれの名所は遊楽客であふれ、賑わう京都の町の様子が鮮やかな色遣いで描かれている。

とくに左隻は北野天満宮に焦点を合わせて描かれているのが特徴で、うねる影向松の傍に現在はない北野経王堂が描かれ、その前では賑やかに酒宴も催されている。

制作者・制作年代は明らかでないが、拝殿に廻廊が巡らされていることから慶長十二年（一六〇七）の豊臣秀頼公による造営後の境内であり、人物の風俗などから江戸時代前期の制作と見られる。

特別展には、連日多くの鑑賞者が訪れ、遊興の場として賑わう北野・東山界隈の様子に見入っていた。なお、開催に先立ち四月二十六日には社務所大広間で報道陣を集めての記者会見が行われ、屏風の解説が行われた。

また、併催の「宝刀展Ⅴ」（重文の太刀など約三十振を展示）は、五回目の宝刀展となったが、「刀剣女子」と呼ばれる女性入場者も多く、相変わらずの人気ぶりを見せていた。



「北野・東山遊楽図屏風」公開



好評だった宝刀展



多数の参拝者が来場



七月二十五日

新茶奉獻奉告祭

宇治・宇治田原・木幡・城陽・佐山・京田辺・和束・醍醐・伏見・向島・綴喜・山城・南山城の茶所より摘まれた新茶を神前に供え、献茶家の家内安全と繁栄を祈願する。



八月四日

例祭（北野祭）

永延元年（九八七）、一條天皇が初めて北野祭を勅祭として斎行された日にあたり、一年で最も大切な祭典。また、農耕の神としての御神徳を景仰し、氏子である西ノ京の農家より夏野菜が奉納される。



七月中旬〜八月中旬

大福梅の土用干し

正月の縁起ものとして事始め（十二月十三日）から授与する「大福梅」調製の梅の実を、梅雨明けをうけて神職・巫女総がかりで土用干しする。



七月十二日

自衛消防訓練

夏の文化財防火デーにあたる七月中旬、当宮において上京消防署と当宮自衛消防隊・翔鸞学区自主防災会・翔鸞消防分団などの連携による防火訓練を行う。





祭事暦（7月1日～9月30日）



【7月】

7月1日	午前10時	月首祭
1日	午前10時半	天満宮講社奉賛奉告祭
12日	午前10時	當日祭
15日	午前10時	月次祭
25日	午前9時	月次祭
	午前11時	新茶奉献奉告祭
	午後4時半	夕神饌

【8月】

8月1日	午前10時	月首祭
3日		参籠

北野御手水神事

4日	午前9時	例祭（北野祭）大祭式
6日	午後4時	御手洗祭前夕饌
7日	午前10時	御手洗祭
13日	午前10時	祈願絵馬焼納式
	午前11時	学業大祭
15日	午前10時	月次祭
25日	午前9時	月次祭
	午後4時半	夕神饌
27日	午後3時	奉納図画展授賞式

【9月】

9月1日	午前10時	月首祭
15日	午前10時	月次祭
23日	午前10時	秋季皇霊祭遙拝式
24日	午前9時	神輿飾り
25日	午前9時	月次祭
	午後4時	夕神饌
26日	午後4時	稚児奉仕者奉告祭



月釜献茶（8月1日～10月31日）



【8月】

8月1日	献茶祭保存会	金澤宗維	（明月舎）
13日	梅交会	休 会	（松向軒）
15日	献茶祭保存会	休 会	（明月舎）
	松向軒保存会	休 会	（松向軒）
27日	紫芳会	休 会	（松向軒）

【9月】

9月1日	献茶祭保存会	官和会	（明月舎）
10日	梅交会	横田宗重	（松向軒）
15日	献茶祭保存会	谷口宗嘉	（明月舎）
	松向軒保存会	秦 宗周	（松向軒）
24日	紫芳会	今村宗幸	（松向軒）

【10月】

10月1日	献茶祭保存会	常廣宗真	（明月舎）
8日	梅交会	田中宗恵	（松向軒）
15日	献茶祭保存会	平井宗紫	（明月舎）
	松向軒保存会	近藤宗貞	（松向軒）
22日	紫芳会	布施宗青	（松向軒）



入賞者参列のもと祭典を斎行し、授賞式を執り行う。

奉納図画展授賞式

八月二十七日

夏休み恒例となつて
いる奉納図画展が八月
二十一日より絵馬所で開
催され、子供たちが描い
た力作を展示する。

奉納図画展

八月二十一日～二十七日



七夕笹
で飾られ
た境内一
円をライ
トアップ
の光が照
らし幻想
的な雰囲
気を演出。
期間中の
様々な行
事ととも
に七夕の
夕べを盛
り上げる。



北野七夕祭 境内夜間参拝 史跡御土居ライトアップ

八月五日～十六日

参拝の修学旅行生に天神さまのご加護を

修学旅行生の昇殿参拝ひっきりなし、今年も大賑わい

学校の要望に応え神職制作のDVD配布、みくじ箱新設も



本殿前で祈願する学生たち

修学旅行生の聖地として近年、本殿への昇殿参拝をする学校が増えているが、今年も七月現在、およそ千八百クラスもの中学・高校の生徒らが本殿に昇り、「志望校に合格を」「学力向上を」と、祈りを捧げた。

修学旅行生がもつとも多い春の昇殿参拝を月別で見ると、五月七百八十九クラス、六月六百六十八クラス、四月三百三十四クラスとなっており、とくに例年数が突出する五月に至っては昨年を三十四クラスも上回った。五月で一番多かった日は二十三日の六十四クラスで、一日四十クラス以上の日が十二日あった。

昇殿参拝の予約申し込みは七月、八月もまだ続いているが、行程の都合上、自由参拝で訪れる学校も数多くあり、修学旅行生の聖地という言葉がぴたりとなっている。

昇殿参拝出来ない一番のネックは時間の制約という。ともかく短い時間で奥深い京都の名所旧跡を巡らねばならず、当宮へ参拝しても常に時間との闘いになるという。たとえ昇殿参拝しても、境内にとどまる時間はきわめて短く、「さつと参拝してさつと引き上げるのが実情です」と話す教師もいる。

「境内にいる時間が短くても、実りのある参拝がしたい」という学校側の要望に応え、当宮の由緒や社殿を解説したDVDを神職が手造りで制作し、

これを過去に昇殿参拝したことのある全国の学校に送付するとともに生徒に当宮に案内するバスガイドにも手渡すなどの便宜も図っている。

このDVD制作・配布について「修学旅行に行く前に学校内で事前学習ができ、たとえば北野天満宮での滞在時間が短くても生徒の理解力を深めることができる」と、学校側からは上々の反応が返っている。また、バスガイドの側からも「私たち自身も勉強になります。バスの中でも生徒さんに見てもらえるので、効果があります」という声が寄せられている。

また、今春から本殿前と紅梅殿船出の庭に、みくじを直接ひいて頂けるみくじ箱を新設した。これは「スムーズなみくじ授与方法の検討を」と、かねてより学校側からだけでなく、若い世代の参拝者から声が寄せられており、このほど「水占みくじ」と「宝みくじ」の二種類で実現した。

◆修学旅行参拝者数

(平成二十九年四月一日～七月十五日) 但し、お申し出を頂いた数

	四月	五月	六月	七月	合計
昇殿参拝	一四三校	三三三校	二六七校	三六校	昇殿参拝 七四九校
自由参拝	二二六校	五四六校	三八三校	六〇校	自由参拝 一二二五校
自由参拝					自由参拝 一八六五クラス

※その他、タクシー参拝・班別参拝等を合わせると、およそ三十万人の修学旅行生の方々が参拝されました。

此の度の参拝を心の支えとされ、
また天神さまのご加護によりご祈願の成就をお祈り申し上げます。



全国各地から参拝に訪れる修学旅行生



修学旅行シーズンにあわせて見頃を迎える青もみじ



入試合格 昇殿参拝祈祷



七夕に学業成就の願いを



大人気「水占みくじ」



一願成就の牛社に溢れんばかりの祈願絵馬

修学旅行
のひとこま

修学旅行特別昇殿参拝学校一覧

●東京都

北区立滝野川紅葉中学校	一クラス
葛飾区立立石中学校	一クラス
江戸川区立西葛西中学校	一クラス
大田区立雪谷中学校	一クラス
渋谷区立上原中学校	一クラス
板橋区立志村第一中学校	二クラス
練馬区立旭丘中学校	二クラス
吉祥女子高等学校	三クラス
府中市立浅間中学校	二クラス
小平市立小平第二中学校	一クラス
西東京市立田無第二中学校	一クラス
あきる野市立西中学校	三クラス
多摩市立青陵中学校	一クラス



●神奈川県

川崎市立川崎中学校	二クラス
川崎市立川中島中学校	三クラス
川崎市立大師中学校	三クラス
川崎市立南大師中学校	三クラス
川崎市立桜本中学校	二クラス
川崎市立渡田中学校	三クラス
川崎市立京町中学校	三クラス
川崎市立臨港中学校	二クラス
川崎市立玉川中学校	一クラス

川崎市立住吉中学校	三クラス
川崎市立井田中学校	三クラス
川崎市立西中原中学校	六クラス
川崎市立宮内中学校	三クラス
川崎市立今井中学校	二クラス
川崎市立御幸中学校	六クラス
川崎市立塚越中学校	二クラス
川崎市立日吉中学校	三クラス
川崎市立高津中学校	四クラス
川崎市立東高津中学校	二クラス
川崎市立東橘中学校	五クラス
川崎市立西高津中学校	四クラス
川崎市立菅中学校	三クラス
川崎市立稲田中学校	五クラス
川崎市立生田中学校	三クラス
川崎市立南生田中学校	二クラス
川崎市立西生田中学校	二クラス
川崎市立金程中学校	二クラス
川崎市立長沢中学校	五クラス
川崎市立王禅寺中央中学校	三クラス
川崎市立麻生中学校	二クラス
川崎市立白鳥中学校	二クラス
川崎市立野川中学校	六クラス
川崎市立有馬中学校	四クラス
川崎市立宮前平中学校	三クラス
川崎市立菅生中学校	四クラス
川崎市立向丘中学校	三クラス
川崎市立宮崎中学校	四クラス
横濱市立川和中学校	二クラス
横濱市立十日市場中学校	一クラス
横濱市立西谷中学校	二クラス
横濱市立都岡中学校	一クラス
横濱市立南希望が丘中学校	一クラス
横濱市立桂台中学校	一クラス
小田原市立白山中学校	一クラス
小田原市立千代中学校	三クラス
藤沢市立片瀬中学校	二クラス
藤沢市立高浜中学校	一クラス
藤沢市立大庭中学校	一クラス
藤沢市立湘南台中学校	二クラス
平塚市立大住中学校	三クラス
伊勢原市立伊勢原中学校	五クラス

●千葉県



千葉市立緑が丘中学校	二クラス
千葉市立轟町中学校	四クラス
松戸市立小金北中学校	一クラス
松戸市立小金南中学校	二クラス
松戸市立根本内中学校	四クラス
松戸市立栗ヶ沢中学校	三クラス
松戸市立小金中学校	二クラス
松戸市立新松戸南中学校	一クラス
流山市立東深井中学校	一クラス
流山市立常盤松中学校	二クラス
流山市立北部中学校	二クラス
流山市立西初石中学校	三クラス
流山市立南流山中学校	二クラス
流山市立南部中学校	六クラス
野田市立川間中学校	一クラス
我孫子市立我孫子中学校	七クラス
我孫子市立白山中学校	五クラス
我孫子市立久我寺中学校	一クラス
印西市立木刈中学校	三クラス
白井市立南山中学校	三クラス
栄町立栄中学校	四クラス
松戸市立六実中学校	二クラス
松戸市立第四中学校	二クラス
松戸市立第五中学校	二クラス
松戸市立和名ヶ谷中学校	二クラス
松戸市立金ヶ作中学校	二クラス
松戸市立第六中学校	二クラス

松戸市立河原塚中学校	三クラス
松戸市立常盤平中学校	五クラス
印西市立本埜中学校	一クラス
松戸市立第三中学校	六クラス
松戸市立第一中学校	三クラス
市川市立第五中学校	一クラス
市川市立第四中学校	二クラス
鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷中学校	二クラス
鎌ヶ谷市立第四中学校	一クラス
鎌ヶ谷市立第五中学校	四クラス
習志野市立第四中学校	四クラス
習志野市立第二中学校	四クラス
習志野市立第一中学校	四クラス
柏市立柏第二中学校	一クラス
柏市立土中学校	二クラス
柏市立逆井中学校	四クラス
柏市立南部中学校	四クラス
柏市立光ヶ丘中学校	二クラス
柏市立田中学校	二クラス
柏市立松葉中学校	三クラス
柏市立富勢中学校	二クラス
柏市立柏中学校	六クラス
柏市立柏第五中学校	四クラス
柏市立柏第三中学校	六クラス
柏市立豊四季中学校	三クラス
柏市立西原中学校	二クラス
柏市立大津ヶ丘中学校	一クラス
柏市立高柳中学校	八クラス
野田市立南部中学校	二クラス
野田市立第二中学校	二クラス
野田市立第一中学校	二クラス
野田市立北部中学校	二クラス
野田市立岩名中学校	二クラス
浦安市立入船中学校	二クラス
浦安市立明海中学校	一クラス
浦安市立富岡中学校	三クラス
浦安市立見明川中学校	六クラス
東金市立東金中学校	一クラス
佐倉市立佐倉中学校	四クラス
佐倉市立南部中学校	二クラス
佐倉市立根郷中学校	一クラス
佐倉市立白井南中学校	三クラス
佐倉市立志津中学校	三クラス
成田市立玉造中学校	六クラス
成田市立公津の杜中学校	一クラス
富里市立富里中学校	一クラス

●茨城県

山武市立成東東中学校	二クラス
山武市立松尾中学校	二クラス
市原市立国分寺台西中学校	一クラス
市原市立有秋中学校	三クラス
市原市立ちはら台南中学校	四クラス
市原市立姉崎中学校	四クラス
いすみ市立岬中学校	三クラス
牛久市立牛久第一中学校	二クラス
取手市立藤代南中学校	一クラス
八千代町立東中学校	二クラス
桜川市立桃山中学校	三クラス
桜川市立桜川中学校	二クラス
龍ヶ崎市立城西中学校	二クラス
龍ヶ崎市立城南中学校	一クラス
常総市立永山中学校	三クラス
常総市立水海道中学校	一クラス
下妻市立下妻中学校	二クラス
つくば市立谷田部中学校	五クラス
古河市立古河第三中学校	三クラス
古河市立古河第二中学校	五クラス
坂東市立東中学校	二クラス
坂東市立南中学校	三クラス
坂東市立岩井中学校	三クラス
結城市立結城東中学校	三クラス
結城市立結城南中学校	四クラス
筑西市立下館中学校	三クラス
筑西市立下館西中学校	四クラス
筑西市立下館南中学校	六クラス
筑西市立協和中学校	四クラス
桜川市立大和中学校	二クラス
桜川市立岩瀬東中学校	二クラス
笠間市立みなみ学園義務教育学校	一クラス
笠間市立友部中学校	六クラス
水戸市立第二中学校	四クラス
水戸市立第一中学校	二クラス
水戸市立第三中学校	二クラス
水戸市立立波中学校	四クラス
水戸市立第四中学校	五クラス
水戸市立笠原中学校	四クラス
水戸市立第五中学校	一クラス
茨城歯科専門学校	二クラス
那珂市立第二中学校	二クラス
那珂市立第一中学校	四クラス
茨城県立茨城学園中学部	一クラス

水戸市立常澄中学校	一クラス
ひたちなか市立阿ヶ浦中学校	一クラス
ひたちなか市立那珂湊中学校	四クラス
大洗町立第一中学校	一クラス
鉾田市立旭中学校	三クラス
茨城町立明光中学校	二クラス
小美玉市立小川北中学校	二クラス
小美玉市立小川南中学校	三クラス
水戸市立双葉台中学校	四クラス
水戸市立飯富中学校	一クラス
城里町立常北中学校	四クラス
城里町立桂中学校	二クラス
ひたちなか市立佐野中学校	二クラス
ひたちなか市立勝田第三中学校	一クラス
常陸太田市立瑞電中学校	三クラス
常陸太田市立太田中学校	二クラス
常陸太田市立世矢中学校	一クラス
常陸太田市立金砂郷中学校	二クラス
鹿嶋市立平井中学校	二クラス
日立市立河原子中学校	二クラス
日立市立泉丘中学校	六クラス
日立市立多賀中学校	四クラス
日立市立駒王中学校	三クラス
日立市立平沢中学校	二クラス
日立市立助川中学校	三クラス
小美玉市立美野里中学校	三クラス
笠間市立岩間中学校	四クラス
水戸市立内原中学校	三クラス
日立市立坂本中学校	二クラス
日立市立豊浦中学校	三クラス
北茨城市立磯原中学校	三クラス
北茨城市立中郷中学校	二クラス
北茨城市立常北中学校	一クラス
北茨城市立関本中学校	一クラス
那珂市立瓜連中学校	二クラス
常陸大宮市立第二中学校	二クラス
常陸大宮市立大宮中学校	三クラス
常陸大宮市立明峰中学校	一クラス
常陸大宮市立山方中学校	二クラス
大子町立大子中学校	二クラス

宇都宮市立宮の原中学校	四クラス
作新学院中部	五クラス
宇都宮市立雀宮中学校	五クラス
宇都宮市立若松原中学校	二クラス
宇都宮市立姿川中学校	三クラス
壬生町立南犬飼中学校	二クラス
壬生町立壬生中学校	二クラス
那須烏山市立南那須中学校	一クラス
那須烏山市立烏山中学校	三クラス
宇都宮市立鬼怒中学校	四クラス
宇都宮市立陽東中学校	五クラス
宇都宮市立瑞穂野中学校	三クラス
宇都宮市立陽北中学校	二クラス
宇都宮市立豊郷中学校	五クラス
日光市立今市中学校	一クラス
日光市立立東中学校	一クラス
日光市立足尾中学校	一クラス
日光市立今市中学校	一クラス
宇都宮市立国本中学校	三クラス
日光市立大沢中学校	一クラス
日光市立豊岡中学校	一クラス
宇都宮市立清原中学校	二クラス
市貝町立市貝中学校	二クラス
茂木町立茂木中学校	一クラス
益子町立益子中学校	四クラス
益子町立田野中学校	二クラス
真岡市立山前中学校	三クラス
真岡市立真岡東中学校	一クラス
真岡市立真岡西中学校	五クラス
真岡市立真岡中学校	六クラス
真岡市立長沼中学校	一クラス
鹿沼市立北中学校	三クラス
鹿沼市立西中学校	二クラス
栃木市立西方中学校	五クラス
小山市立小山中学校	二クラス
小山市立豊田中学校	二クラス
小山市立美田中学校	二クラス
小山市立絹義務教育学校	二クラス
小山市立小山第三中学校	五クラス
小山市立小山城南中学校	七クラス
栃木市立藤岡第一中学校	四クラス
大田原市立野崎中学校	二クラス
大田原市立湯津上中学校	一クラス
那須塩原市立日新中学校	三クラス
足利市立坂西中学校	一クラス
佐野市立田沼西中学校	一クラス
栃木市立東陽中学校	二クラス

栃木市立栃木西中学校	五クラス
栃木市立皆川中学校	一クラス
栃木市立都賀中学校	四クラス
栃木市立寺尾中学校	一クラス
野木町立野木中学校	三クラス
小山市立間々田中学校	二クラス
小山市立乙女中学校	三クラス
下野市立国分寺中学校	五クラス
下野市立南河内中学校	二クラス
下野市立南河内第二中学校	二クラス
下野市立石橋中学校	一クラス
上三川町立明治中学校	二クラス
上三川町立本郷中学校	二クラス
宇都宮市立古里中学校	三クラス
宇都宮市立河内中学校	三クラス
宇都宮市立田原中学校	三クラス
高根沢町立阿久津中学校	五クラス
さくら市立喜連川中学校	三クラス
矢板市立矢板中学校	五クラス
那須町立那須中央中学校	四クラス
足利市立富田中学校	二クラス
栃木市立岩舟中学校	三クラス
栃木市立大平南中学校	三クラス



さいたま市立桜木中学校	一クラス
さいたま市立三橋中学校	二クラス
さいたま市立宮前中学校	二クラス
さいたま市立土屋中学校	二クラス
さいたま市立馬宮中学校	二クラス
さいたま市立泰平中学校	二クラス
さいたま市立宮原中学校	一クラス
さいたま市立日進中学校	二クラス
川口市立十二月田中学校	四クラス
川口市立元郷中学校	三クラス
川口市立領家中学校	二クラス
川口市立南中学校	三クラス
川口市立仲町中学校	一クラス
川口市立西中学校	四クラス
川口市立青木中学校	四クラス
川口市立幸並中学校	三クラス
川口市立戸塚中学校	二クラス
川口市立戸塚西中学校	六クラス
川口市立北中学校	四クラス
川口市立在家中中学校	三クラス
川口市立上青木中学校	六クラス
川口市立芝西中学校	二クラス
川口市立芝東中学校	二クラス
川口市立芝中学校	一クラス
川口市立鳩ヶ谷中学校	四クラス
川口市立八幡木中学校	一クラス
川口市立安行中学校	五クラス
川口市立安行東中学校	四クラス
川口市立榛松中学校	三クラス
川口市立東中学校	一クラス
戸田市立戸田東中学校	二クラス
戸田市立喜沢中学校	二クラス
戸田市立新曽中学校	一クラス
戸田市立笹田中学校	六クラス
さいたま市立岸中学校	一クラス
さいたま市立白幡中学校	二クラス
さいたま市立南浦中学校	二クラス
さいたま市立内谷中学校	五クラス
さいたま市立大谷口中学校	一クラス
さいたま市立本太中学校	五クラス
さいたま市立三室中学校	一クラス
さいたま市立尾間木中学校	二クラス
さいたま市立東浦中学校	二クラス
さいたま市立原山中学校	四クラス
さいたま市立春野中学校	一クラス
さいたま市立七里中学校	二クラス
さいたま市立大谷中学校	三クラス

狹山市立狹山台中学校	六クラス
朝霞市立朝霞第三中学校	二クラス
和光市立第二中学校	一クラス
和光市立大和中学校	五クラス
新座市立第二中学校	四クラス
新座市立新座中学校	三クラス
新座市立第三中学校	二クラス
飯能市立飯能第一中学校	一クラス
入間市立黒須中学校	一クラス
入間市立藤沢中学校	四クラス
入間市立上藤沢中学校	二クラス
所沢市立狭山ヶ丘中学校	一クラス
熊谷市立富士見中学校	一クラス
熊谷市立妻沼東中学校	一クラス
熊谷市立妻沼西中学校	一クラス
熊谷市立大幡中学校	二クラス
熊谷市立大原中学校	三クラス
行田市立忍中学校	二クラス
行田市立南河原中学校	一クラス
上尾市立上平中学校	一クラス
上尾市立瓦葺中学校	一クラス
上尾市立南中学校	三クラス
上尾市立西中学校	二クラス
伊奈町立伊奈中学校	二クラス
伊奈町立小針中学校	七クラス
鴻巣市立鴻巣中学校	一クラス
深谷市立幡羅中学校	四クラス
深谷市立南中学校	一クラス
本庄市立本庄南中学校	二クラス
本庄市立児玉中学校	三クラス
神川町立神川中学校	三クラス
深谷市立岡部中学校	一クラス
深谷市立川本中学校	一クラス
寄居町立寄居中学校	一クラス
寄居町立城南中学校	二クラス
長瀨町立長瀨中学校	二クラス
杉戸町立広島中学校	一クラス

千代田町立千代田中学校	三クラス
邑楽町立邑楽中学校	一クラス
高崎市立並榎中学校	二クラス
高崎市立寺尾中学校	一クラス
高崎市立八幡中学校	二クラス
玉村町立玉村中学校	四クラス
玉村町立南中学校	二クラス
高崎市立倉賀野中学校	一クラス
高崎市立矢中中学校	二クラス
甘楽町立甘楽中学校	三クラス
富岡市立東中学校	二クラス
富岡市立南中学校	三クラス
高崎市立箕郷中学校	二クラス
高崎市立榛名中学校	一クラス
高崎市立倉渕中学校	一クラス
高崎市立群馬南中学校	二クラス
吉岡町立吉岡中学校	一クラス
前橋市立桂萱中学校	二クラス
前橋市立第三中学校	一クラス
前橋市立粕川中学校	一クラス
前橋市立大胡中学校	二クラス
前橋市立宮城中学校	二クラス
前橋市立第七中学校	二クラス
前橋市立箱田中学校	一クラス
伊勢崎市立第三中学校	一クラス
伊勢崎市立宮郷中学校	四クラス
伊勢崎市立第二中学校	一クラス
伊勢崎市立第四中学校	二クラス
藤岡市立北中学校	二クラス
桐生市立中央中学校	四クラス
桐生市立清流中学校	一クラス
みどり市立大間々中学校	三クラス
桐生市立新里中学校	一クラス
みどり市立東中学校	一クラス
長野原町立東中学校	一クラス
沼田市立池田中学校	一クラス
片品村立片品中学校	二クラス
安中市立第一中学校	三クラス
安中市立第二中学校	四クラス
安中市立松井田北中学校	一クラス
安中市立松井田南中学校	二クラス
安中市立赤城北中学校	一クラス
みなかみ町立水上中学校	一クラス
前橋市立荒砥中学校	四クラス
前橋市立木瀬中学校	三クラス
伊勢崎市立赤堀中学校	二クラス
みどり市立笠懸南中学校	二クラス

長野市立柳町中学校	三クラス
長野市立丘陵中学校	三クラス
長野市立堀花中学校	三クラス
長野市立東北中学校	一クラス
長野市立櫻ヶ岡中学校	四クラス
長野市立北部中学校	四クラス
山ノ内町立山ノ内中学校	一クラス
長野市立松代中学校	一クラス
長野市立更北中学校	一クラス
長野市立広徳中学校	四クラス
長野市立川中島中学校	六クラス
長野市立信州新町中学校	一クラス
長野市立中条中学校	一クラス
小川村立小川中学校	一クラス
長野市立戸隠中学校	一クラス
長野市立鬼無里中学校	二クラス
須坂市立常盤中学校	四クラス
須坂市立相森中学校	四クラス
須坂市立東中学校	一クラス
須坂市立墨坂中学校	四クラス
高山村立高山中学校	二クラス
中野市立南宮中学校	四クラス
中野市立中野平中学校	一クラス
中野市立高社中学校	一クラス
小諸市立芦原中学校	二クラス
小諸市立小諸東中学校	三クラス
佐久市立白田中学校	三クラス
佐久穂町立佐久穂中学校	一クラス



組合立小海中学校	二クラス
佐久市立望月中学校	二クラス
立科町立立科中学校	二クラス
佐久市立浅間中学校	七クラス
佐久市立中込中学校	四クラス
佐久市立野沢中学校	三クラス
上田市立第五中学校	二クラス
上田市立第三中学校	二クラス
上田市立第一中学校	四クラス
上田市立丸子中学校	二クラス
上田市立丸子北中学校	一クラス
上田市立真田中学校	三クラス
千曲市立屋代中学校	二クラス
千曲市立更埴西中学校	三クラス
長野市立篠ノ井東中学校	二クラス
長野市立篠ノ井西中学校	六クラス
軽井沢町立軽井沢中学校	四クラス
御代田町立御代田中学校	一クラス
東御市立東部中学校	五クラス
坂城町立坂城中学校	一クラス
千曲市立戸倉上山田中学校	三クラス
飯綱町立飯綱中学校	二クラス
信濃町立信濃小中学校	一クラス
中野市立豊田中学校	二クラス
飯山市立城南中学校	一クラス
木島平村立木島平中学校	二クラス
栄村立栄中学校	一クラス
松本市立安島羽中学校	四クラス
松本市立鎌田中学校	一クラス
松本市立松島中学校	三クラス
信州大学教育学部附属松本中学校	一クラス
松本市立波田中学校	二クラス
茅野市立永明中学校	四クラス
茅野市立東部中学校	一クラス
茅野市立長峰中学校	一クラス
茅野市立北部中学校	一クラス
諏訪市立上諏訪中学校	二クラス
諏訪市立諏訪中学校	一クラス
岡谷市立岡谷北部中学校	一クラス
岡谷市立岡谷西部中学校	一クラス
岡谷市立高陵中学校	二クラス
飯田市立飯田西中学校	二クラス
飯田市立旭ヶ丘中学校	二クラス
阿智村立阿智中学校	二クラス
喬木村立喬木中学校	一クラス

伊那市立東部中学校	二クラス
伊那市立伊那中学校	一クラス
松本市立信明中学校	四クラス
松本市立筑摩野中学校	三クラス
松本市立菅野中学校	一クラス
富士見町立富士見中学校	一クラス
辰野町立辰野中学校	二クラス
塩尻市立丘中学校	四クラス
塩尻市立塩尻中学校	三クラス
天龍村立天龍中学校	一クラス
阿南町立阿南第一中学校	二クラス
飯田市立竜峽中学校	一クラス
高森町立高森中学校	二クラス
飯島町立飯島中学校	三クラス
宮田村立宮田中学校	一クラス
駒ヶ根市立東中学校	二クラス
伊那市立西箕輪中学校	三クラス
伊那市立西箕輪中学校	一クラス
南箕輪村立南箕輪中学校	一クラス
箕輪町立箕輪中学校	三クラス
上松町立上松中学校	一クラス
塩尻市立塩尻西部中学校	三クラス
安曇野市立明科中学校	一クラス
大町市立八坂中学校	四クラス
松本市立会田中学校	三クラス
安曇野市立三郷中学校	五クラス
安曇野市立豊科南中学校	一クラス
安曇野市立穂金中学校	二クラス
安曇野市立穂高東中学校	一クラス
松川村立松川中学校	二クラス
大町市立美麻中学校	二クラス
白馬村立白馬中学校	二クラス





●山梨県

甲府市立北東中学校	二クラス
甲府市立西中学校	五クラス
甲府市立南西中学校	三クラス
甲府市立北西中学校	一クラス
南アルプス市立白根御勅使中学校	三クラス
甲府市立東中学校	三クラス
甲府市立南中学校	一クラス
山中湖村立山中湖中学校	二クラス
忍野村立忍野中学校	三クラス
都留市立都留第二中学校	四クラス
道志村立道志中学校	一クラス
富士吉田市立富士見台中学校	一クラス
富士吉田市立明見中学校	三クラス
富士吉田市立下吉田中学校	六クラス
西桂町立西桂中学校	一クラス
上野原市立上野原中学校	一クラス
沼津市立門池中学校	四クラス
沼津市立大岡中学校	五クラス
沼津市立金岡中学校	四クラス
沼津市立第五中学校	一クラス
沼津市立長井崎中学校	一クラス
沼津市立今沢中学校	三クラス
沼津市立浮島中学校	二クラス
沼津市立第一中学校	二クラス

沼津市立第四中学校	三クラス
沼津市立大平中学校	一クラス
沼津市立第三中学校	五クラス
沼津市立第二中学校	二クラス
沼津市立片浜中学校	二クラス
裾野市立富岡中学校	四クラス
裾野市立西中学校	三クラス
裾野市立須山中学校	一クラス
小山町立小山中学校	二クラス
小山町立北郷中学校	二クラス
小山町立須走中学校	一クラス
伊豆の国市立蕨山中学校	四クラス
伊豆の国市立長岡中学校	四クラス
伊豆の国市立大仁中学校	二クラス
伊豆市立中伊豆中学校	二クラス
伊豆市立天城中学校	一クラス
沼津市立戸田中学校	一クラス
三島市立山田中学校	四クラス
三島市立北中学校	三クラス
三島市立北上中学校	一クラス
三島市立錦田中学校	二クラス
三島市立中郷中学校	三クラス
三島市立中郷西中学校	三クラス
清水町立清水中学校	四クラス
清水町立南中学校	四クラス
長泉町立北中学校	三クラス
御殿場市立西中学校	四クラス
御殿場市立富土岡中学校	七クラス
御殿場市立南中学校	四クラス
御殿場市立御殿場中学校	五クラス
御殿場市立原里中学校	五クラス
伊東市立対島中学校	三クラス
伊東市立佐美中学校	一クラス
伊東市立北中学校	二クラス
伊東市立南中学校	四クラス
伊東市立門野中学校	三クラス
富士市立富士中学校	六クラス
富士市立岩松中学校	四クラス
富士市立田子浦中学校	四クラス
富士市立吉原第二中学校	四クラス
富士市立元吉原中学校	二クラス
富士市立吉原第一中学校	五クラス
富士市立岳陽中学校	四クラス
富士市立大淵中学校	四クラス
富士市立須津中学校	四クラス
富士市立吉原東中学校	一クラス

富士市立吉原第三中学校	二クラス
富士市立吉原北中学校	三クラス
富士宮市立大富士中学校	五クラス
富士宮市立富士根南中学校	六クラス
富士宮市立富士第三中学校	四クラス
富士宮市立富士第四中学校	五クラス
富士宮市立富士第二中学校	三クラス
富士宮市立富士第一中学校	六クラス
富士宮市立西富士中学校	二クラス
函南町立東中学校	五クラス
函南町立函南中学校	六クラス
富士市立鷹岡中学校	四クラス
富士市立柚野中学校	四クラス
富士宮市立芝川中学校	二クラス
静岡市立西奈中学校	一クラス
静岡市立長田南中学校	一クラス
静岡市立城山中学校	三クラス
焼津市立大井川中学校	四クラス
牧之原市立榛原中学校	一クラス
組合立牧之原中学校	一クラス
藤枝市立岡部中学校	一クラス
静岡市立服織中学校	三クラス
静岡市立賤機中学校	五クラス
静岡市立美和中学校	二クラス
静岡市立由比中学校	二クラス
静岡市立蒲原中学校	三クラス
富士市立富士川第二中学校	二クラス
富士市立富士川第一中学校	二クラス
静岡市立中島中学校	二クラス
静岡市立大里中学校	三クラス
静岡市立清水飯田中学校	一クラス
静岡市立清水第一中学校	一クラス
静岡市立清水第八中学校	一クラス
静岡市立清水第七中学校	三クラス
焼津市立大村中学校	一クラス
藤枝市立広幡中学校	二クラス
藤枝市立西益津中学校	二クラス
藤枝市立大洲中学校	四クラス
藤枝市立青島中学校	九クラス
藤枝市立青島北中学校	三クラス
島田市立六合中学校	四クラス
島田市立初倉中学校	二クラス
島田市立金谷中学校	二クラス
浜松市立舞陽中学校	三クラス
浜松市立湖西中学校	二クラス
湖西市立湖西中学校	四クラス
湖西市立鷺津中学校	三クラス
浜松市立三ヶ日中学校	三クラス

浜松市立佐久間中学校	一クラス
浜松市立水窪中学校	一クラス
浜松市立蜷塚中学校	一クラス
浜松市立三方原中学校	六クラス
浜松市立開成中学校	六クラス
浜松市立浜北北部中学校	六クラス
浜松市立北浜東部中学校	一クラス
掛川市立西中学校	一クラス
掛川市立東中学校	一クラス
掛川市立北中学校	四クラス
袋井市立周南中学校	二クラス
浜松市立春野中学校	一クラス
磐田市立福田中学校	一クラス
掛川市立大須賀中学校	三クラス
掛川市立大浜中学校	三クラス
掛川市立城東中学校	二クラス
御前崎市立浜岡中学校	三クラス
磐田市立竜洋中学校	四クラス
菊川市立菊川西中学校	四クラス



●富山県

富山県立芝園中学校	一クラス
富山県立呉羽中学校	三クラス
立山町立雄山中学校	一クラス
富山県立奥田中学校	二クラス
氷見市立十三中学校	一クラス
古川学園中学校	三クラス



●新潟県

柏崎市立第五中学校	一クラス
新潟市立黒埼中学校	二クラス
福島市立福島第四中学校	一クラス
二本松市立岩代中学校	一クラス
いわき市立藤間中学校	一クラス
いわき市立平第一中学校	二クラス
いわき市立四倉中学校	一クラス
沖縄県立衛生士学校	一クラス
沖縄県立衛生士学校	(順不同)



作新学院植樹奉告祭



かねてより篤い御崇敬をいただいている栃木県の作新学院において五月二十六日、当宮の神職が出向し天満宮の梅の植樹奉告祭を齎行した。

これは同校創立一三〇周年の記念事業の一環として、今年の二月に完成した作新アカデミア・ラボの敷地内にて行われた。作新学院学院長船田元氏をはじめ約十五名の関係者が参列し、祭典では敷地内に植えられた「おもいのまま」など四本の梅のお祓いをし、祝詞を奏上した。

文化財を守ろう！
出火防止を呼びかける啓発活動を実施

大茅の輪くぐりで賑わう六月二十五日、楼門前で京都市上京及び北少年消防クラブ員総勢二十名と上京消防署職員、消防団員が、出火防止を呼びかける啓発活動を実施した。防火ティッシュを配布しながら、文化財を火事から守る意識向上を緣日で行き交う多くの参拝者に呼び掛けた。

正式参拝された皆様（敬称略）（四月～六月）

四月 十五日（土） 忠節天神神社
五月 十一日（水） 京都府神社庁綴喜神社総代会
五月 十一日（水） 多賀神社
五月 十四日（日） 交通安全フェスタ

(THE SUPER CAR HERITAGE
GATHERING 2017 in KYOTO)

五月 十八日（木） 藤和会
五月 二十一日（日） 苗羽子丑会
五月 二十一日（日） 関西アヴェンタ会
五月 二十二日（月） 神明大一社
五月 二十二日（月） 京都ホテルオークラ「季節の旅」辰の子会
五月 二十六日（金） 東寺宗務総長 橋本尚信氏
六月 十日（土） 京都SKYシニア大学
六月 十三日（火） 津田天満宮総代
六月 十八日（日） 石川県神社庁輪島支部
六月 二十五日（日） 勝川天神社奉賛会
六月 二十七日（火） 萩原神社総代会
六月 二十八日（水） 珊瑚会

挙式された皆様（四月～六月）

四月 二日（日） 山口 雄平・菜穂子 ご夫妻
四月 九日（日） 清水 敏行・説子 ご夫妻
四月 十四日（金） 島 嵩人・愛 ご夫妻
四月 二十三日（日） 若井 泰佑・あゆみ ご夫妻
五月 三日（水） 竹内 晋平・千尋 ご夫妻
五月 三日（水） 川嶋 幸治・里穂 ご夫妻
五月 六日（土） 渡邊 信・祥子 ご夫妻
五月 七日（日） 石川 和裕・奈々 ご夫妻
五月 二十日（土） 村川 泰裕・清香 ご夫妻
五月 二十一日（日） 菅原 邦義・裕子 ご夫妻
五月 二十一日（日） 白江 秀宜・彩華 ご夫妻
五月 二十六日（金） 島田 直樹・真紀江 ご夫妻
五月 二十七日（土） 松本 隆・朋子 ご夫妻
五月 二十七日（土） 吉田 真一・知帆 ご夫妻
五月 二十八日（日） 近江 伸介・恵理子 ご夫妻
六月 三日（土） 米田 心平・葉月 ご夫妻
六月 四日（日） 林 哲平・千聡 ご夫妻
六月 四日（日） 戸高 敏宏・沙也加 ご夫妻
六月 十一日（日） 林 暢彦・真実 ご夫妻

新郎新婦様、御両家の皆様の

末永いご多幸をご祈念申し上げます。

天神さん

思い出写真館



昭和三年春に齎行された千二十五年半萬燈祭の写真帳にあった「楼門下露店出店」と付記された写真四枚のうちの一枚である。

建物に直接書いたのか、張り付けたのか、わからない。「皆様の御休憩所」とあり、喫茶店の出店なのだろう。

参拝の大人や子どもは、九十年前を彷彿させるいで立ちだが、中央に立っている店の従業員らしき三人は、今も変わらない装いに見える。この喫茶、軽食も出したのだろうか？などと勝手に想像してしまう。

当時の神苑は広く、この場所がどこなのかわからない。『千廿五年祭要誌』によると、続々露店出店の願い出があり「各種の露店休憩所飲食店見世物充満し、多くは相応の仮小屋を建設し、各装飾を凝らし（中略）下の森以北は昼夜壮観を呈したる」とあり、賑わいのほどはご想像頂きたい。



「社頭古絵図」(五)
— 中世末社の変貌 —

「社頭古絵図」には、北辺に三所皇子、貴船、老松、十二所が、次いで西辺に福部、十禪師、尼神、御霊、早鳥、今尾、火神子、那伊鎌、周枳明神、一拳、大歳八所、一位殿、二位殿、一夜松の諸社、南門外には大鳥居の西に西宮殿、松童八幡、が描かれている。

「社頭古絵図」にみえる末社と現在の末社の状況を比較すると、三所皇子(地主)・老松社・火御子社・一夜松社を除くと大きく異なる。ではいつこの変化が起こったのだろうか。当宮所蔵の遷宮関係の記録から、この変化の大半が起こったのは、寛文の大修造の折であったことが分かる。

寛文七年(一六六七)九月三日、江戸幕府の大工頭木原木工の手代鈴木与次郎が修造を前に当社を見分しに来た際、この度の修復にあたって、末社は長屋作りにして相殿にするとの方針が示された。

十二所社の南、火御子社の北に、貴布祢・十禪師・福部・尼・御霊・今雄・早鳥・荒神の八社が一棟相殿となる。この内、十禪師・福部・尼・御霊・今雄・早鳥の六社はその順序に多少の変化があるが位置は大きくは変わらなかった。しかし、貴布祢社は「社頭古絵

図」に描かれたように中世には三所皇子(地主)と老松社との間にあった社であり、また荒神社は東門の外にあった社である。

二つ目は一夜松社の北に、那伊鎌・一拳・周枳・一位殿・二位殿・三位殿・大判事(大歳八所)の七社が一棟相殿となった。これらの社の内、大判事社のみが社中にあつたもので、他はいずれも社外にあつたものである。

三つめは、七社の北、毘沙門堂との間に、中世以来南の門外にあつた夷・三郎・松童八幡の三社と七軒町の後ろにあつた老松の四社が一棟相殿となった。夷社は「社頭古絵図」の「西

宮殿」のこと、三郎社は「社頭古絵図」には描かれていない社である。

この社中・社外の末社が長屋作り相殿となることに対しては、宮仕の間で、当社の末社は社中・社外、それぞれ子細があり、移され相殿になつては社中社外の別なく、次第が混乱し、神慮を量りがたく、嘆きも余りあるとし、大工の鈴木に申し入れるが、江戸で老中によつて決められたことでもあり、また神事奉行である松梅院が江戸で望んだことでもあると言われ、やむなく受け入れることになる。



社頭古絵図(西側)

宝刀展VI「伝説の太刀髭切」開催

文武両道の天神様に奉納された至極の一振



刀剣乱舞-ONLINE-
コラボレーション



A4 クリアファイル…500 円



開催記念カード〈1 種〉
(来館者無料進呈)



缶バッジ〈3 種セット〉…700 円

刀剣乱舞-ONLINE-
オリジナル
コラボ記念品

・お一人様の購入数を制限させて頂く場合がございます。
・なくなり次第終了となります。

宝物殿特別展「宝刀展VI」を、七月十五日〜八月三十一日まで開催。昨今の刀剣人気はいまだ根強く、昨年より始めた宝刀展も今シーズンで六回目を迎える。今回は人気の火付け役ともなった重要文化財『鬼切丸』（別名髭切）を展示するほか、鎌倉から明治までに奉納、收藏された刀約三十振を公開する。

また公開期間中は、刀剣乱舞-ONLINE-とのコラボレーション企画も実現。北野天満宮でしか見ることのできない企画、手に入らない記念品の授与を実施する。



『厳選梅酒まつり』を初開催
京都北野天満宮を舞台に、全国選りすぐりの梅酒を一堂に集めて楽しむ梅酒の祭典



「全国梅酒品評会 2017」の部門別受賞『梅酒』を北野天満宮で発表!!
9/16(土)から受賞梅酒と京都の梅酒50種類以上を楽しむ梅酒の祭典

「梅と言えば、天神さん」

誰しもがそう答える梅の神社、全国天満宮の総本社北野天満宮を舞台に開催される『厳選梅酒まつり in 北野天満宮』。

全国の酒蔵から選ばれた受賞「梅酒」の飲み比べや即売会、京菓子和梅酒のコラボ企画などを境内絵馬所を会場に実施し、梅酒文化の発信と地域の発展に繋げる行事として執り行う。

なお梅酒まつり前日の九月十五日は「全国梅酒品評会2017」の部門別受賞『梅酒』を当宮で発表する。



瑞饋祭

ずいきまつり

●由緒

京都の代表的な秋祭りとして知られる瑞饋祭は、村上天皇の御代へ天慶九年（九四六）〜康保四年（九六七）にはじまると伝えられています。

年に一度、御鎮座の往時に思いを致し御神霊を「お迎えする」ことで、氏神としての天神様を改めて意識し感謝する心が育まれます。

還幸祭渡御には、御鳳輦三基・御羽車一基・瑞饋御輿大小二基などが出御、その他供奉者等あわせて総勢二〇〇名が氏子区域を巡行します。

〈祭礼日程〉

一日	神幸祭	午後一時	行列出発
		午後四時	御旅所到着
二日	献茶祭	午前十時	献茶祭
			（表千家宗匠奉仕）
三日	甲御供奉饌	午後三時	（七保会奉仕）
四日	還幸祭	午後一時	行列出発
		午後四時半	本社到着
五日	后宴祭	午後三時半	（八乙女舞奉納）



七五三

詣は、知恵の神様

北野天満宮へ

☆七五三詣の皆様には、史跡御土居もみじ苑入苑料優待あり
もみじ苑特設舞台では、国宝御本殿と紅葉を背景に記念写真も撮影できます。



七五三詣は、子供の成長に感謝し無事を祈り、神社にお参りする大切な人生儀礼です。子供は国の宝であり、親にとってもかけがえのない宝です。

北野天満宮で七五三詣をし、子供の成長と無事を祈るとともに、さらに天神様のご加護で知恵を授かりましょう。ご家族お揃いのご参拝をお待ちいたしております。

一、受付日

十一月中、毎日受付いたします。

※但し、十一月二十三日（木）、十一月二十六日（日）は、祭典のため《祈禱を中断する時間帯がございますのでご了承下さい。

※尚、十一月以外の月も、事前にお申込み下さればお受けいたします。

二、七五三詣初穂料

一人 五千円より

二人 八千円（兄弟姉妹に限る）

三人 一万二千元（兄弟姉妹に限る）

三、授与品・記念品

知恵守、千歳飴、祝い箸、デイズニ一の学用品セット

四、案内状持参の特典

特別授与品の「勾玉」を進呈



御縁日 境内ライトアップ



毎月25日は天神さんの御縁日。夜9時まで境内特別ライトアップ！

定期購読のお知らせ

- 定期購読 1,000円（1年分）季刊・年4回発行
- 学校・教育機関でお申込みの場合は無料発送。
- お申込み・お問い合わせは、社務所まで。

今昔マップ



平安京

当宮は平安京の乾に位置し、古くより天のエネルギー、パワーの働く北野の地に祀られています。

平安京の内裏、大極殿北西に位置し三光門の真上に北極星が輝き、天子様が北極星を拝する聖なる社でした。

平安京の大極殿（遷都より600年の間）は今の京都御所の西にありました。

紙屋川、堀川に挟まれ、すぐ北西に当宮が建てられています。

- 平安京（大内裏）
- 大極殿（室町時代迄の平安京）
- 京都御所（室町時代以降）

